

# リアホナ

奉仕を通して福音を伝える  
16ページ

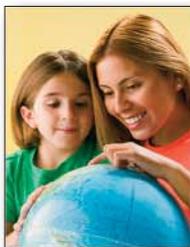
キリストの教会はどうなったか  
12ページ

恐れることはない  
「フレンド」2ページ

# リアホナ



表紙  
写真/クレグ・ダイヤモンド、  
写真はイメージです



「フレンド」表紙  
写真/ロバート・ケーシー、  
写真はイメージです

「試しと教えを受ける」  
8ページ参照

## 一般

- 2 大管長会メッセージ——真に見ることができるように 第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 16 福音を伝えるための7つの教え  
地域幹部七十人 クレイトン・M・クリステンセン, クリスティン・クイン・クリステンセン
- 25 家庭訪問メッセージ——神会に関する知識を喜びとする
- 28 義にかなった生活に立ち返る——ボルノグラフィーを捨てる ロリー・C・リード
- 34 家族を強める——完成へと向かう歩み
- 36 末日聖徒の声  
登るべきだろうか マイケル・T・リッチー  
ジャズミンと安息日 マルセラ・コラベラルディーノ・デ・ミティロ  
予期せぬ出会い 匿名  
会う前からの奉仕 ホセ・サルバドール・ヤネス・ロベス
- 42 教義と聖約からのメッセージ——啓示の霊 地域幹部七十人 M・ゴンサロ・セポーブダ
- 44 教師定員会——管理監督会へのインタビュー
- 48 読者からの便り

## 青少年

- 8 試しと教えを受ける 七十人 クリストフェル・ゴールデン・ジュニア
- 11 祝福となった祈り ベレンジェール・カビアーレ
- 12 キリストの教会はどうなったか シャンナ・パトラー
- 22 質疑応答——わたしは福音を愛していますが、福音について人に話すことに恐れを感じます。  
どのようにすれば恐れを克服できるのでしょうか。
- 26 先生を教えました プリンス・イヘンコロ
- 41 ポスター——だまされてはいけません
- 46 神権の職の教師として パメラ・リード
- 47 御存じでしたか？

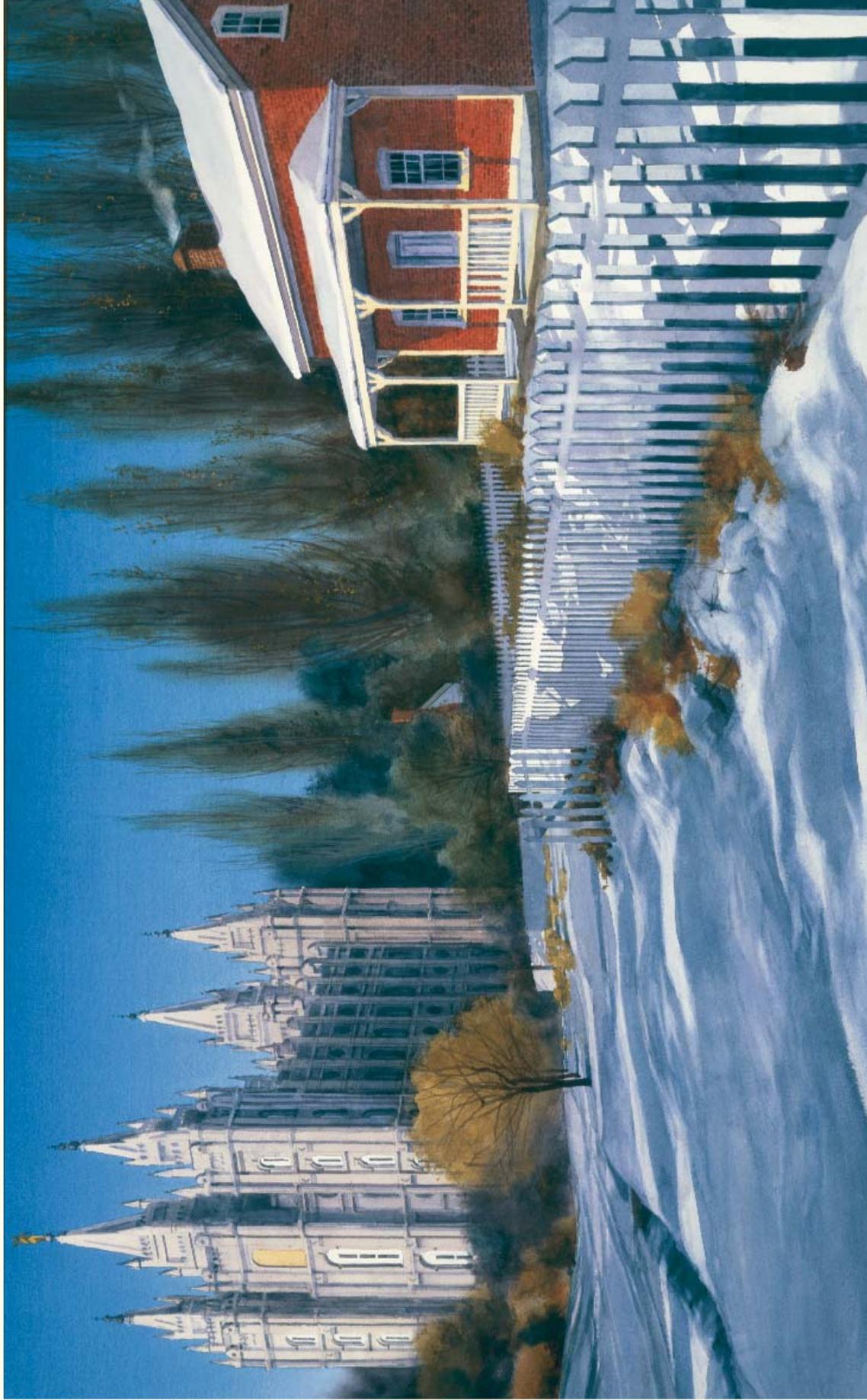
## フレンド

- F2 預言者の声——おそれることはない  
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 特別な証人 ボイド・K・パッカー長老はどんな人？
- F5 わたしは、天のお父さまの子どもです
- F6 デビッド・O・マッケイだいかんちょうのしょうがいから  
——十分なきょういくをうけた人
- F8 自分で決めるんだよ スーザン・B・ミッチェル
- F11 昔のお話から——あるしまいの模範  
十二使徒定員会 マシュー・カウリー
- F12 だって、先生はわたしを愛してくれているんだもの  
パトリシア・リース・ローパー
- F14 分かち合いの時間  
——わたしはかみの子 マーガレット・リファース
- F16 ちいさなみんなのために



「神会に関する  
知識を喜びとする」  
25ページ参照





「思い出の森」 アル・ラウンス画

ソルトレーク神殿は1893年4月6日に奉獻された。これはその年の初冬に、現在「思い出の森」として知られる

森の近くから眺めた神殿北東の静かな風景である。

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)  
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,  
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, ラッセ  
ル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラ  
ード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバ  
ート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・ア  
ーリング, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, W・ロルフ・カー

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ピクチャー・D・ケープ

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャナ・ハ  
トラ, ライアン・カー, リンダ・ステル・クーパー, ラリオン・ポーター  
・ガートン, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャ  
リー・カステル, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム  
・C・オーン, ジュディス・M・バーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L  
・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス,  
ポール・バンテンバーグ, ジュリー・ワートル, キンバリー・ウェッブ, モ  
ニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ヒーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンブラット, ハワード・G・ブラウン,  
トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン  
・ハワード, デニース・カービー, タッド・R・ビーターソン, ランドール・J  
・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替  
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-  
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵  
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ  
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ  
リスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出る言葉「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下  
の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクラ  
イナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロ  
アチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セ  
ブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, テ  
ンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語,  
フージー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド  
語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リト  
ニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷:日本  
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい  
て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料  
に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあ  
ります。著作権に関するご質問は、

Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—  
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines February 2005.

Japanese. 25982 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で  
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク  
リックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

**For Readers in the United States and Canada:**  
February 2005 no. 2 UAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729)  
is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50  
East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is  
\$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage  
Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days  
notice required for change of address. Include address label from a recent  
issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian sub  
scriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below.  
Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,  
MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste  
Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,  
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

# 家庭の夕べのための アイデア



## 「試しと教えを受ける」

8ページ——紙で踏み石をか  
たどったものを幾つか作りま  
す。そのうちの一つに「マタイ  
5:16;6:24, 33」と書き、別の  
踏み石には「教義と聖約82:10」と書きま  
す。これらの聖句に示されている教えが、  
どのように幸福への「踏み石」となるかを  
話し合ってください。またクリストフェル・  
ゴールデン長老の経験を読んで話し合  
い、家族の一人一人にどのように感じた  
か話してもらいます。

## 「キリストの教会はどうなったか」

12ページ——教会の建物の絵を描いて、  
それを12枚の紙片に切り分けます。それ  
ぞれの紙片に、この記事にある各小見出  
しのタイトルを書いてから、目につかない  
場所に隠してください。そして家族に、隠  
された「教会」を探し出して、元の形に回  
復するように言います。「教会」が完成し  
たら、各小見出しを読み上げ、それにつ  
いて話し合ってください。また回復につい  
て証を述べてください。

## 「福音を伝えるための7つの教え」

16ページ——この記事に採り上げられて  
いる教えに対する考えや経験を分かち合  
うように、家族に勧めてください。そして今  
後の1か月間に、家族が生活の中で実践  
する教えの一つを選びます。また宣教師を  
家庭に招いて、自分たちが住んでいる地  
域の人々に福音を伝えるのを家族がどの  
ように助けられるかについて話し合うよう  
に計画してみましょう。

## 「完成へと向かう歩み」

34ページ——  
この記事を読んでいる間、注意深く耳を  
傾け、人生の目的についての考え方を書  
き出すように言います。このリストを使っ  
て、人生の目的について話し合ってください。  
また家族の宣言の中から、一つの項目を  
覚えられるように計画してみましょう。

## 「おそれることはない」

F2ページ——この話を読んで、  
ゴードン・B・ヒンクレー大管長  
がこんなにも楽観的である理由  
を考えましょう。そして南アメリ  
カの女性が示した勇気について話してく  
ださい。友達を教会に招待するときや福  
音に関する質問に答えるとき、どのよう  
に言えばいいかを実際に演じてみる計画を  
立てましょう。紙に「恐れることはない。た  
だ信じなさい」と書いて(マルコ5:36)、自  
宅の壁にはってください。

## 「あるしまいの模範」

F11ページ——  
家族に中身が空のガラス瓶を見せて、中  
に何を入れておくことができるか尋ねま  
す。物語を一緒に読んで、そこに登場す  
る姉妹が瓶の中に蓄えたものの価値に  
ついて話し、<sup>じゅうぶん</sup> 自分の一に関する証を分か  
ち合ってください。

### 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略			
愛	..... F12, F14	信仰	..... 22, 34, F2
証	..... 22	自分の一	..... F11
安息日	..... 36	初等協会	..... F14
イエス・キリスト	..... 2, 25, 28, F5, F14	神会	..... 25
祈り	..... 11, 44, F5	神殿	..... 2, 34, 36
教えること	..... F12	救いの計画	..... 34, F5
恐れ	..... 22, F2	聖霊	..... 25, 36, 42
改宗, 改心	..... 26, 42, F8	選択の自由	..... 8, 34, F8
回復	..... 2, 12, 25	罪	..... 41
家族	..... 34, F8, F16	伝道活動	..... 8, 11, 16, 22, 26, F2
家庭の夕べ	..... 1	天の御父	..... 25, F5, F14
家庭訪問	..... 25	デビッド・O・マッケイ	..... F6
神の特質	..... 34, F5, F14	背教	..... 12
教育	..... F6	ボイド・K・バッカー	..... F4
教義と聖約	..... 42	奉仕	..... 16, 36, F12
悔い改め	..... 28	ホームティーチング	..... 7, 44, 46
啓示	..... 36, 42	ボルングラフィー	..... 28
指導性	..... 44, 47	模範	..... 8, 26, 36, F11
神権	..... 2, 44, 46		



# 真に見ることが できるように

第一副管長

トーマス・S・モンソン

イエスが人々の間を歩き、教えられたときに、しばしばお話しになったのは、悟り、感じることのできる心、聞くことのできる耳、真に見ることのできる目を持つことについてでした。

わたしたちのだれもが目の不自由な人を知っています。また視力はあっても真昼に暗闇の中を歩いている人も大勢知っています。後者に属する人は、白い杖を持ち歩いたり、前方に障害物がないか「トントントン」と杖で探りながら進んだりしません。忠実な盲導犬をそばにつけることも、「わたしは目が不自由です」というカードを首に下げることもしませんが、彼らは確かに見えていません。ある人は怒りによって目が見えなくなっています。また、無関心、復讐心、憎悪、偏見、無知、大切な機会を見過ごすことによって見えなくなっている人もいます。このような人について主は言われました。「この民の心は鈍くなり、その耳は聞えにくく、その目は閉じている。それは、彼らが目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、悔い改めていやされることがないためである。」<sup>1</sup>

これらの人々は、「イエス・キリストの福音が回復されたというのに、わたしの目はまだ見えません」と嘆いて当然です。彼らのうちのある

人は、ピリポの友人のように、こう叫んでいます。「だれかが、手びきをしてくれなければ、どうして〔わたしの進むべき道が〕わかりましょう。」<sup>2</sup>

何年も前のことですが、あるステーキ大会に出席したときに、ステーキ副会長が盲人であることに気づきました。彼の働きぶりは見事で、まるで目が見えているかのように責任を果たしていました。建物の2階にあるステーキ事務所でわたしたちが会ったのは嵐の晩のことでした。突然、ドーンという大きな雷の音がして、建物内の電気はほとんど一瞬にして消えました。わたしは本能的にその目の不自由な指導者に手を伸ばしてこう言いました。「さあ、わたしの腕につかまってください。階段を下りるのを手伝いましょう。」

すると次のような言葉が返ってきましたが、きっと彼の顔には笑みが浮かんでいたことでしょう。「大丈夫です、モンソン兄弟。あなたこそ、わたしの腕につかまってください。わたしがあなたをお助けします。わたしは暗闇には慣れていますが。」やがて嵐は遠のき、電気も復旧しました。目が見えずとも光に満ちていたその男性に導かれて階段を下りたことを、わたしは決して忘れないでしょう。



ある人は  
怒りによって目が  
見えなくなっています。  
また、無関心、復讐心、  
大切な機会を  
見過ごすことによって  
見えなくなっている人が  
います。  
ある人は、  
ピリポの友人のように、  
こう叫んでいます。  
「だれかが、手びきを  
してくれなければ、  
どうして〔わたしの  
進むべき道が〕  
わかりましょう。」



**ウ**ォルター・  
ストーパーは、  
列車を  
チャーターし、  
ドイツ全土の教会員が  
一堂に会して  
聖餐せいさんを取り、  
神から賜った祝福を  
証あかしし合えるように  
したのです。

### 世の光

遠い昔の、遠く離れたある場所での出来事です。イエスは道を通っていると、生まれつきの盲人を御覧になりました。弟子たちは主に、その人はなぜ目が見えないのか、本人またはその両親がこのような苦しみを受けるような罪を犯したためかと尋ねました。

「イエスは答えられた、『本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。……』

わたしは、この世にいる間は、世の光である。』

イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、どろをつくり、そのどろを盲人の目に塗って言われた、

『シロアム……の池に行って洗いなさい。』そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって、帰って行った。』<sup>3</sup>

この奇跡についてパリサイ人の間で大きな紛争がありました。

「そこで彼らは、盲人であった人をもう一度呼んで言った、『神に栄光を帰するがよい。あの人〔イエス〕が罪人であることは、わたしたちにはわかっている。』

すると彼は言った、『あのかたが罪人であるかどうか、わたしは知りません。ただ一つのことだけ知っています。わたしは盲人であったが、今は見えるということです。』<sup>4</sup>

シモンと呼ばれた漁師がいました。わたしたちにとっては、ペテロという名の方が親しみを感じるでしょう。彼は、使徒の長でした。疑い深く、不信仰で、気性の激しかったペテロは、主の預言どおりに、イエスを3度知らないと言いました。主はそのとき、押され、あざげられ、打ちたたかれていました。「主は愚弄ぐろうされる苦しみに耐え、莊嚴な沈黙を守りながら、『振り向いてペテロを見詰められました。』<sup>5</sup> ある歴史学者がそのときのペテロの心の変化をこう書いています。「それで十分でした。……『それから〔ペテロは〕どのような危険も顧みず、死をも

恐れませんでした。』……〔ペテロは〕『夜明けを迎えるために』……夜の暗闇の中に走って行きました。……ペテロの心は打ち砕かれ、悔い、自らの良心の法廷に〔立ちました。〕ペテロは自分の良心というその法廷で、これまでの生き方、過去の恥辱、弱さ、昔の自分を、神の御心に添うた悲しみによって葬るようにと宣告されました。新しく〔高潔な〕者として誕生するようにと命じられたのです。』<sup>6</sup>

使徒パウロもまた、ペテロと同様の経験をしています。改心した日から世を去る日までずっと、パウロは「古き人を脱ぎ捨て」、「真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着る」<sup>7</sup>ように熱心に説き勧めました。

漁師シモンは使徒ペテロとなり、迫害者サウロは伝道者パウロとなりました。

## キリストの光

時が流れても、<sup>あがな</sup>贖い主がお持ちの、人の生き方を変える力が、変わることはありません。墓に葬られたラザロに言われたように、贖い主は皆さんやわたしに、「出てきなさい」<sup>8</sup>と言っておられるのです。

ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)はこのように語りました。「地上を歩む人はすべて、住む場所や生まれた国、貧富を問わず、生まれたときから、キリストの光、真理の<sup>みたま</sup>御霊、神の御霊と呼ばれる最もすばらしい光を、賜物として授けられています。この英知の普遍の光がすべての人に授けられているのです。この御霊について、〔モルモン〕はこう述べています。

『見よ、善悪をわきまえることができるように、すべての人にキリストの御霊が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行うように誘い、またキリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によって送り出されているのである。したがってあなたがたは、それが神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる。』(モロナイ7:16)<sup>9</sup>

皆さんやわたしの知り合いの中にも、ここに定義されているとおりの祝福を救い主から受ける資格のある人がいます。

ソルトレーク・シティに住んだウォルター・ストーバーはそのような人でした。ドイツ生まれのウォルターは、福音のメッセージを受け入れ、アメリカにやってきました。事業を興した彼は、時間と財産を進んでささげました。

第二次世界大戦後、ウォルター・ストーバーは祖国に戻るよう召されました。ドイツに帰って教会を管理したウォルターは、そこで出会い仕えたすべての人の生活に祝福を与えました。ウォルターはさらに私財を投じて、ベルリンに二つの

教会を建てました。美しいベルリンは、当時紛争で荒廃していたのです。また、彼はドイツに住む全教会員のために、ドレスデンで集会を開くことを計画しました。列車をチャーターし、ドイツ全土の教会員が一堂に会して<sup>せいさん</sup>聖餐を取り、神から賜った祝福を証し合えるようにしたのです。

ウォルター・ストーバーの義理の息子であるトーマス・C・ルドックは、ウォルターの葬儀でこう語りました。「父には、出会うすべての人の顔にキリストの面影を見る才能があり、キリストに接するように人に接していました。」

ある詩人がこう書いています。

闇の中で、見知らぬ男に会った  
彼のランプは消えていた  
わたしは立ち止まり  
彼にランプの火を分けた

強い嵐がやって来て  
世界中を揺さぶった  
風が通り過ぎたとき  
わたしのランプは消えていた

しかし、あの男が戻って来て  
輝くランプを手を持って  
彼は貴い炎を差し出して  
わたしのランプをともしてくれた<sup>10</sup>

恐らくこの詩の意味は、人に光を与えたいと望むのならば、自分の光を輝かせなくてはならないということでしょう。

## 福音の光

預言者ジョセフ・スミスが入った森は、そこで起きた出来事のために聖なる場所となりました。ジョセフはその出来事をこう記しています。

「それは1820年の早春、美しい晴れた日の朝のことであった。わたしがこのようなことを行おうとしたのは、生涯で初めてであった。わたしは不安のまっただ中であっても、声に出して祈ろうとしたことはまだ一度もなかったからである。」<sup>11</sup>

見えない力から受ける苦痛に耐えた後の経験を、ジョセフはこう続けています。

「わたしは自分の真上に、太陽の輝きにも勝って輝いている光の柱を見た。そして、その光の柱は次第に降りて来て、光はついにわたしに降り注いだ。……」



**ム** リボラ兄弟の  
求めに応じて  
祝福が  
授けられました。  
その後、彼は  
こう祈りました。  
「あなたの知恵により、  
目が光を  
取り戻すことになろうと、  
生涯闇の中に  
いることになろうと、  
今こうして福音を  
理解できることを、  
また、命の光を  
与えてくれる  
福音が真実であることを  
永遠に感謝する  
でしょう。」

その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。』<sup>12</sup>

そしてジョセフは聞き、学んだのです。

時々このように尋ねられます。「モンソン兄弟、もしも救い主が御姿を現されたら、どのような質問をしますか。」

わたしの答えはいつも同じです。「質問はしません。むしろ救い主の御言葉を聞くつもりです。」

太平洋に浮かぶ島で、ある晩遅く起きた出来事です。小さな舟がおおざっぱな造りの桟橋に滑るように入って来ました。二人のポリネシア人女性が、メリ・ムリボラが舟から降りるのを手伝い、村の道路へと続く細い道を案内しました。彼女たちは真夜中の空に輝く星の明るさに驚いていました。優しい月の光に照らされながら、一行は道を進みました。ところが

メリ・ムリボラには、その自然の美を、月も星も空も楽しむことができませんでした。目が不自由だったのです。

メリ・ムリボラはもともと視力は正常でした。しかしある日、パイナップル農園で働いていると、突然辺りが真っ暗になり、その日以来、昼でもまるで暗闇のような生活を送ることになってしまったのです。後に彼は、福音が回復されたことや末日聖徒イエス・キリスト教会の教えについて学びました。そして、その教えに従って人生を歩むようになりました。

メリ・ムリボラと彼の愛する家族は、神の神権を持った人が島々を訪問していると聞いて、長旅をして来たのです。ムリボラ兄弟は聖なる神権を持つ者の手から祝福を受けたいと思いました。そしてその望みはかないました。視力を失った目からは涙がとめどなく流れ、褐色の頬を伝って、身に着けていた民族衣装に落ちました。彼はひざまずいて祈りました。「おお神よ、わたしの目が見えないことをあなたは御存じです。もし御心にかなえば、視力は回復するとあ

あなたの僕が祝福してくれました。あなたの知恵により、目が光を取り戻すことになろうと、生涯闇の中にいることになろうと、今こうして福音を理解できることを、また、命の光を与えてくれるこの福音が真実であることを永遠に感謝するでしょう。」

彼は立ち上がると、祝福をしたわたしたちに感謝しました。そして夜の暗闇に消えて行ったのです。彼は静かにやって来て、静かに去って行きました。しかし彼の存在をわたしは決して忘れることはないでしょう。わたしは主の言葉を思い出しました。「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう。」<sup>13</sup>

今は神殿建設の時代です。今日ほど多くの神殿が建築され、奉獻された時代はありません。この地上における神の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、このような主の宮で、きわめて重要な儀式が行われるようにというビジョンを持っています。神殿は参入する人、また神殿の完成のために犠牲を払うすべての人を祝福します。キリストの光は死者を含むすべての人を照らします。ジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は死者のために働くことについてこのように明言しています。「死者のために払うわたしたちの努力によって、彼らを縛っている鎖は断ち切れ、取り巻く闇が一掃され、そして彼らのうえに光が輝くことでしょう。霊界にいる彼らは、子孫によって自分たちの儀式が執行されたことを聞き、これらの義務を果たした子孫とともに喜びの声を上げることでしょう。」<sup>14</sup>

使徒パウロは「信者の模範になりなさい」<sup>15</sup>と熱心に勧められています。そしてヤコブの手紙にはこうあります。「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない。」<sup>16</sup>

最後に、詩人ミニー・ルイス・ハスキンスの言葉を紹介します。彼女はこう記しています。

新年の戸口に立つその男にわたしはこう言った。

「光を下さい。そうすれば知らない所でも安心して入って行けるでしょうから。」

すると彼は答えた。

「闇の中を進んで行ってその手を神の御手にゆだねなさい。

その方が、光を得るよりも良く、なじみの道を行くよりも安心でしょう。」

そこでわたしは進んで行って、神の手を見つけると、闇の中を喜びに満たされて進んだ。

神はわたしを丘へと導き、荒涼とした東の空に日が昇るのを見せてくださった。<sup>17</sup>

わたしたちが光を輝かせ、それによって天の御父と御子イエス・キリストが栄光をお受けになることができますように。御子の名は、わたしたちに救いを得させる、地上で唯一の名前なのです。■

#### 注

1. マタイ13:15
2. 使徒8:31
3. ヨハネ9:3, 5-7
4. ヨハネ9:24-25
5. フレデリック・W・ファーラー,  
*The Life of Christ* (1874年),  
580。ルカ22:61参照
6. *The Life of Christ*, 581
7. エペソ4:22, 24
8. ヨハネ11:43
9. *Stand Ye in Holy Places*  
(1974年), 115
10. ロン・ウッドラム “Lamps”
11. ジョセフ・スミス-歴史1:14
12. ジョセフ・スミス-歴史1:16-17
13. ヨハネ8:12
14. 『歴代大管長の教え——  
ジョセフ・F・スミス』247
15. 1テモテ4:12
16. ヤコブの手紙1:22
17. “The Gate of the Year”  
ジェームズ・ダルトン・モリソン編,  
*Masterpieces of Religious  
Verse* (1948年), 92

## ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 電球またはろうそくを見せる。家族に「光」という言葉はどのように用いられるか、リストを作ってもらい(リスト作成に当たっては、本記事の各見出しを参照する)。本記事に紹介されている一つか二つの話を使って、見えることがどんなに大きな祝福か話し合う。イエス・キリストが人生にもたらしてくださった光について証を述べる。

2. ウォルター・ストーバーとメリ・ムリポラが人々にいかに光をもたらしたかについて注意しながら聞くように言う。二人の話を読み終えたら、家族一人一人が福音の光を自分の家族やほかの人にもたらす方法について話し合う。

3. このメッセージに記された実例や物語の一つを紹介しながら、イエス・キリストが人々の生活にどのように光をもたらしてくださっているかについて、家族で話し合うように勧める。イエス・キリストについての教えがあなたの生活に光をもたらしたときの経験を紹介する。

# 試しと教えを 受ける



七十人  
クリストフェル・ゴールドデン・ジュニア

わたしたちが  
主の言葉を行うなら、  
主はそれに対して  
義務を負われます。  
わたしたちの  
なすべきことは、  
主や自分を  
裏切らないことです。

**現**世は試しの状態であり、わたしたちはそこで試しと教えを受けることになります。残念ながら、人生の大切な教訓は簡単に学べるものではありません。しかしきちんと学ぶならば、これらの教訓は、この世における幸福と来るべき世での永遠の栄光を享受するための踏み石になるのです。

次に紹介する経験から、わたしはとても大切な二つの教訓を学びました。

## 恐れずに語りなさい

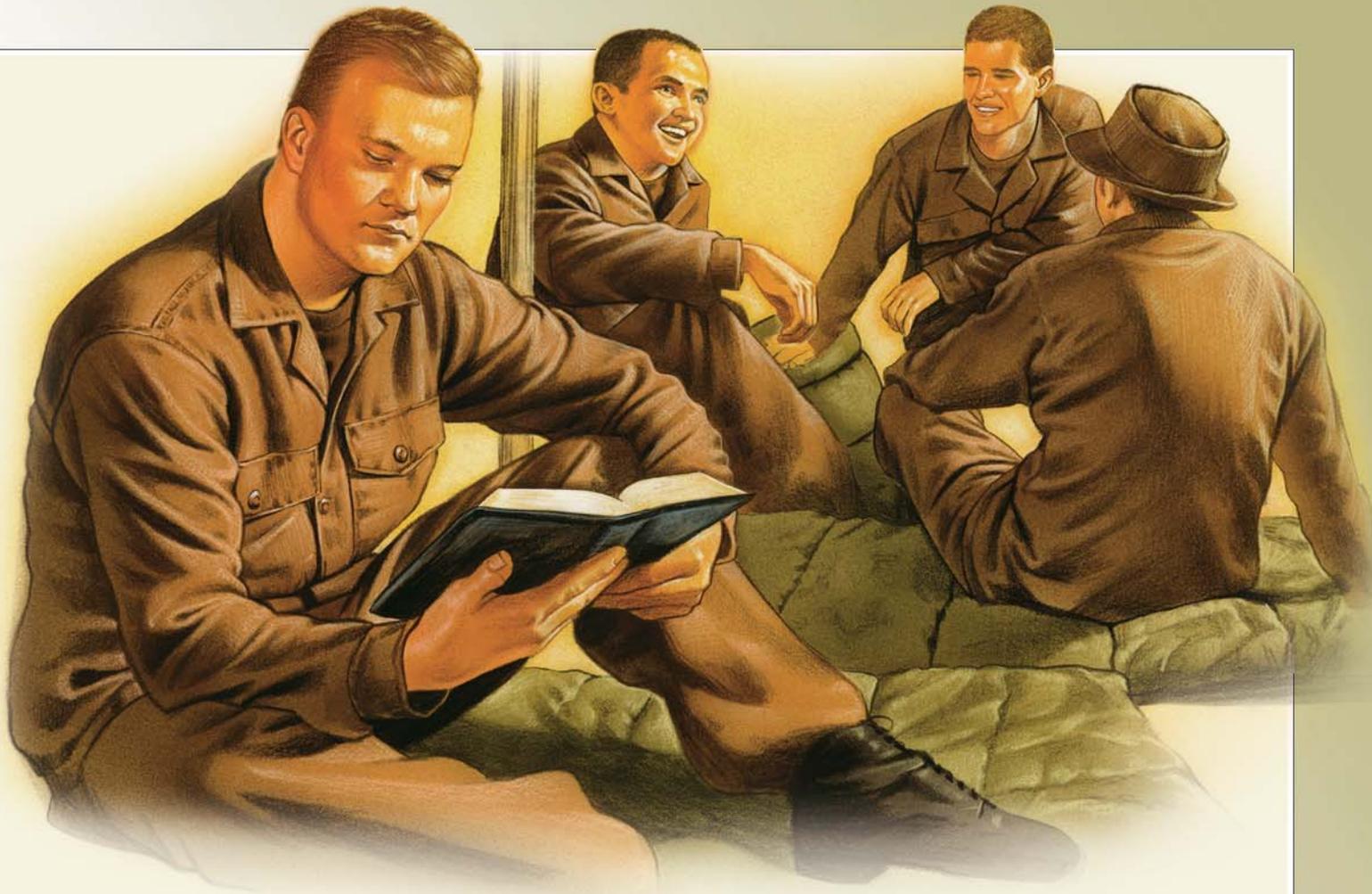
それは風が吹きすさぶ寒い日曜日の午後のことでした。わたしは家を離れて南アフリカの軍隊で兵役に就いていました。面倒な仕事を幾つか終えた後、小隊の兵士たちが10人ほどわたしたちのテントに集まって、くつろいでいました。残念なことに、そのようなときの若い男たちによくあるように、会話のほとんどは低俗なものになりました。

わたしは不愉快になり、外に出ようと思いました。テントの入り口に目をやると、入り口の幕が激しい風にバタバタとはためき、寒気が流れ込んでいました。それを見てすぐに、外に出るのはばかげていると思い、中にとどまって聖文を

読むことにしました。彼らと同じ部屋で聖文を読むことはこれまで普通にしていたのですが、その日は集中して読めませんでした。会話の中心になっていた友人が下品な話を始めると、程なく彼らはより低俗な話を始めました。

わたしは瞬時に、反対の声を上げようという衝動に駆られました。しかし、やめました。仲間から独善的な男だと思われ、みんなの楽しみをじゃましていると非難されると考えたからです。少しの間、心に葛藤<sup>かつとう</sup>を覚えた後、この状況でできる唯一のことを行おうと決心しました。すなわち、耳をふさいで、読書に集中することでした。この方法は幾らか効果がありました。でも、いたたまれない気持ちをぬぐい去ることはできませんでした。

時間とともに記憶は薄れていきます。数週間もたつと、わたしはその経験を忘れていました。しかしそれから2年後、わたしの友人の行動が、あの日の記憶を呼び起こしたのです。わたしたちは、ビールを飲んでいる大勢の兵士たちの前にいました。その中に見知らぬ男がいて、わたしをからかい始めました。一緒にわずかなアルコールを飲む仲間に加わらなかったからです。すると、友人がわたしを弁護するために



立ち上がり、驚いたことに真剣にこう言ったのです。「クリス・ゴールドデンは、隊でただ一人、真のクリスチャンだ。」わたしを知っているほかの人たちも友人と一緒にわたしのことを弁護し、その男を黙らせてくれました。

その後、友人とわたしは、薄暗い半月の中を塹壕に向かって歩いて行きました。彼は突然立ち止まり、それまでのつきあいで一度も見せたことのない真剣なまなざしでわたしを見ました。そして、その晩の出来事を思い返してこう言いました。「あれは本気で言ったんだ。実際に、クリス、君以上に神への信仰に忠実な人を見たことがない。」

思いも寄らない言葉でした。わたしは福音に従って生活するようにいつも努力してきましたが、普通の末日聖徒がする以上のことをしているとは思いませんでした。それに、わたしは人目を引かないように常に努めてきたのです。

彼の話はまだ終わっていませんでした。「1度だけ、君がっかりしたことがある。」わたしは彼の淡々とした非難の言葉に大変ショックを受け、彼と一緒に経験したすべての出来事を猛スピードで振り返りました。そしてついに、2年前の風の吹きすさぶ、あの寒い日曜日に思い当たったのです。友人の言葉により、わたしはそのまま忘れていたかった、心苦しい記憶にさらされたのです。

彼は続けました。「テントの中に座って話をした、あの寒い日曜日の午後を覚えているかい。今正直に言えば、恥ずかしくなるような話もあった。」

わたしは呆然として、わずかにうなずきました。向かい合って立っていたわたしは、夜の闇が心の動揺を隠してくれるように願いました。

彼は言いました。「ぼくは話をしながら、心の中で祈っていたんだ。下品な話をやめるように、君が言ってくれることをね。でも、君は何もしなかった。」

刺すような非難の言葉に続いて長い沈黙があり、心が沈んでいきました。わたしは友人がっかりさせただけでなく、主と自分自身の期待をも裏切ったのです。

その日以来、わたしは同じ過ちを二度と犯さないように努めてきました。次の主の戒めの真の意味について、大切な教訓を学んだのです。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5:16) 救い主は、「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない」と説明し(マタイ6:24)、わたしたちに次のように勧告しておられます。「まず神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイ6:33)

## 主の約束を信頼する

わたしが学んだもう一つの教訓は、何年も前に南アフリカのヨハネスバーグ伝道部で宣教師として働いていたときの経験から得たものでした。

特にあの日は、思わしくないことばかりでした。同僚とわたしは、断食と祈りをもって長時間、一生懸命に伝道したにもかかわらず、何の成果も得られませんでした。自転車で近くの店に向かったころには、帰途に就くいつもの時間を過ぎていました。わたしたちの頭の中は、食べ物を見つけることでいっぱいでした。あいにく時間が遅かったので、店はすでに閉まっていました。どうするか話し合っているうちに、わた



しは町の反対側に、まだ開いていそうな店があることを思い出しました。二人ともそこに行きたいと思いました。うれしことに、店はまだ開いていました。

身をかがめてチョコレートを選んでいると、だれかがわたしの肩をたたきました。振り向くと、一人の女性が笑顔で立っていました。とても久しぶりに見る顔でした。

話を聞いて分かったのですが、彼女は数年前から教会に熱心ではなくなり、教会員以外の人と結婚していました。そして最近、家族と一緒にわたしたちの伝道区域から15キロほど離れた場所に引っ越して来たのです。彼女は寂しさを感じ、教会員との交流を懐かしく思い出しましたが、内気な性格なので、見知らぬ人と連絡を取るの気が進みませんでした。そこで、昔の知り合いに再会して、今住んでいるこ

の地域のワードの会員に自分たち家族を紹介してもらえるようにと、主に祈り求めてきたのです。彼女は、その店でわたしたちと出会ったのは祈りの答えだと感じました。なぜなら、彼女がその店に来たのは初めてでしたし、突然思い立ってのことだったからです。

次の日曜日、同僚とわたしは教会で、彼女とそのご主人を心から歓迎しました。

その後何年もして、彼女から手紙が届きました。手紙にはあの経験から影響を受けた家族全員について、詳しく書いてありました。彼女が教会に再び熱心になる以前、親族の中の教会員は皆、教会へ行かなくなっていました。しかし、彼女が再び熱心になると、ご主人もバプテスマを受けました。二人して、福音の中で子供たちを育てました。彼女が熱心になって以来、親族の中で再び教会に行くようになるか、バプテスマを受けた人は、20人以上になります。その中の多くが神殿で結婚しました。専任宣教師として伝道した人もいます。監督を務めた人も3人います。

この姉妹の忠実さや、彼女の謙遜な祈りにこたえられた主の慈悲深さを思うと、いつも大きな驚きに包まれます。わたしたちがああ遅く出会った店は、町外れにありましたが、宣教師のアパートからも姉妹の住まいからも遠く離れていました。それにもかかわらず、主は偉大な業を行うためにその店を使われたのです。

この経験を思い出す度に、疲れ果てて落胆した二人の宣教師の姿と、主の次の約束が成就していく様子が心に浮かんできます。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。」(教義と聖約82:10)

興味深いことではないでしょうか。主は御自身に約束を守る義務を負わせなさいとおっしゃっているのです。どうすればそれができるかという、ただ、主から求められていることを行い、主が約束を果たしてくださると信頼するだけでよいのです。これは恐らく、人がその人生で学ぶことのできる非常に大切な教訓の一つでしょう。

これらの出来事やそのほかの経験から、わたしは、神がわたしたち一人一人を非常に近くで見ておられることを理解しました。神がそのようにされるのは自然なことです。なぜなら、わたしたちは神の息子、娘なのですから。わたしたちは天の御父にとって大切な存在であり、だからこそしばしば、その無限の愛によって、わたしたちがさらに御自分に似た者となれるように、わたしたちが苦難に遭うのをお許しになるのです。■

# 祝福

## となった祈り



ベレンジェール・カビアーレ

**数**年前のこと、半年間教会から離れていたわたしは、再び教会に戻りました。わたしは信じられないほど霊的な渇きを感じていました。それで正しい道に戻ったのです。それから数か月して、宣教師として主に仕えたいと強く望むようになりました。監督と面接をし、準備できるように助けてもらいました。ほんとうに準備ができるまで待つ必要がありました。そしてその間に、家族に自分の計画を話すようにと監督から勧められました。

両親は教会員でしたが、9年以上教会に行っていないのでした。二人にわたしの望みを話した日から、両親は強く反対するようになりました。わたしが入学を許可されていた学校から課せられる厳しい試験に合格すれば、1年後、伝道に行ってもよいということで、家族の同意が得られました。

その年は、それまでの人生で最も困難な年となりました。母は、わたしが伝道に出たいという望みをやがて忘れるだろうと考えていました。しかし、2、3か月学校に通った後で、ほんとうに伝道に行く準備をしていることを知った母は、仕送りをやめたのです。わたしの祈りが大きな祝福となったのはそのときでした。

天の御父から、仕事を探すように導かれ、仕事を探しました。良い働き口を3つ見つけて応募書類を書きました。そして、主から命じられたことをすべて行ったので、少なくとも一つは良い返事をもらえるようにと主に願い求めました。

わずか3日で一社から返事が来ました。面接をすると言うのです。面接後、その日のうちにそこに勤めることに決まりました。ただ一つ問題だったのは、すべて賄えるほどの収入が得られないことでした。神に祈ると、主を信頼し、恐れないうようにという励ましを受けました。そこで、安心して什分の一を納めました。

2、3週間後、家主が会いたいと言ってきました。「きっと家賃のことだろう」と思いました。しかし、家主はこう言ったのです。「学校を卒業するまで家賃は払わなくていいよ。」

信じられませんでした。この祝福のおかげで、必要な支払いができただけでなく、最も重要な、伝道資金をためることもできました。ちょうど必要なときに、次々と奇跡が起こったのです。

わたしは今、伝道を終えたところです。天の御父に祈ることができてほんとうに感謝しています。主が生きておられ、子供たちを愛しておられることを確かに知ることができ、うれしく思います。主が言われることに耳を傾けるなら、わたしたちは人生において多くの奇跡を目にすることでしょう。

ベレンジェール・カビアーレはフランス・パリステーク、サン=カンタン・アン・イブリーヌ支部の会員です。

# キリストの教会は どうなったか

シャンナ・バトラー  
教会機関誌

**も** しミューチャルに行ったことで逮捕されたらどうしますか。証を述べたために殺されたらどうでしょう。自分で聖典を所有することが法律違反で、皆さんを導く生ける預言者がいなかったらどうなるか想像してください。

イエス・キリストが亡くなられた後、初期のクリスチャンはそのような状況にありました。救い主の死から400年もたたないうちに、イエスが組織された教会は世界中のどこにも存在しなくなりました。こうして大背教と呼ばれる時代が始まったのです。新約聖書の使徒たちとモルモン書の弟子たちはいなくなりました。それに伴って、教会を管理し、神権を維持する権能もなくなりました。

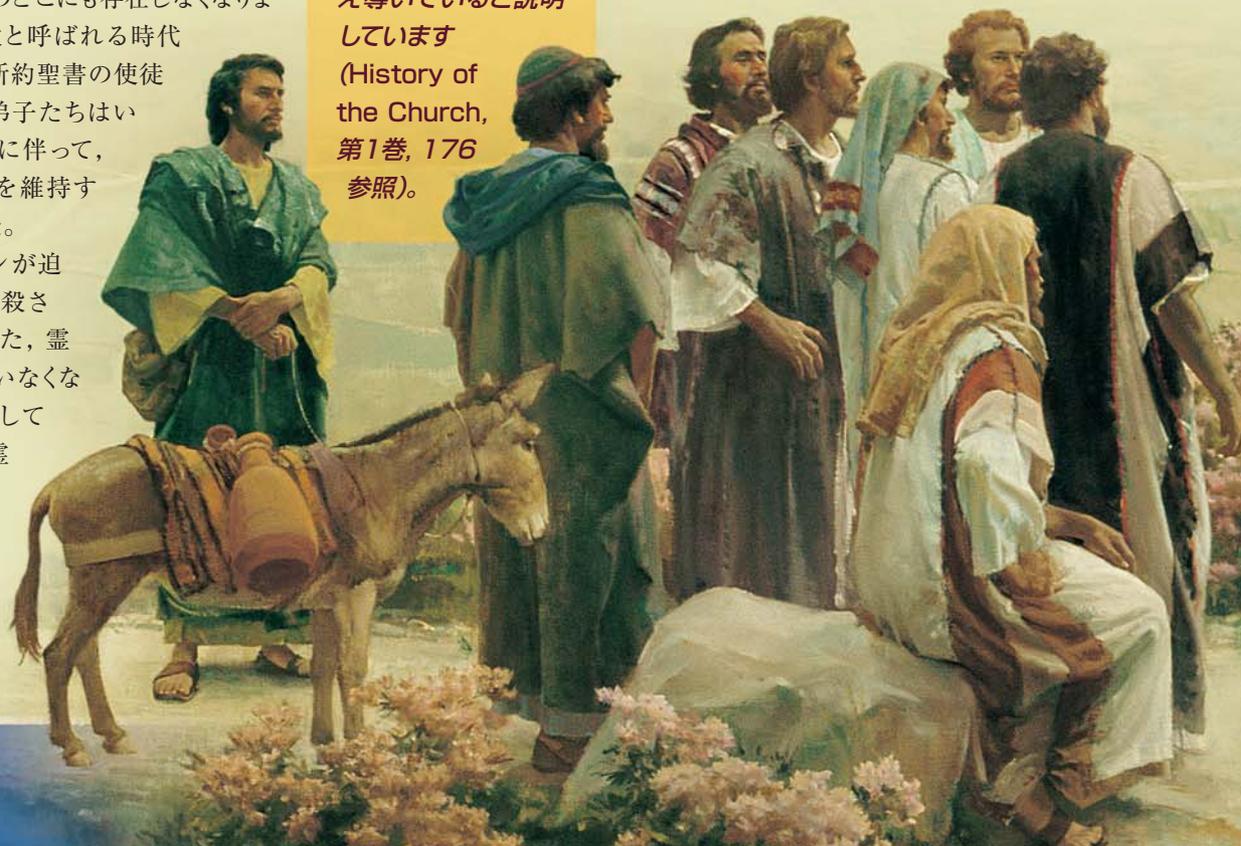
それはクリスチャンが迫害され、拷問を受け、殺された時代でした。また、靈感を受ける指導者がいなくなり、教会自体も腐敗していきました。世界は霊的な暗黒の中にあったのです。

## 愛弟子ヨハネ

使徒ヨハネがパトモス島に追放されたのは紀元93年か94年ごろのことでした。ヨハネは主の再臨を見るまで生きるという約束を救い主から受けました(ヨハネ21:21-23; 教義と聖約7章参照)。預言者ジョセフ・スミスは、ヨハネが行方の知らない十部族を教え導いていると説明しています (History of the Church, 第1巻, 176 参照)。

## 背教とは

背教とは、真理から離れることを意味します。今も教会を去る人はいます。しかし、今日わたしたちが大背教と呼ぶ時代には、人が去っただけではありませんでした。使徒たちの死とともに、神権の鍵、すなわち管理に必要な神権の権能が地上から取り去られたのです。これらの見張り人、つまり福音の教義を純粋なまま保ち、教会の秩序を維持し、ふさわしさの標準を保っていた使徒たちがいなくなると、教会員は大きな困難に直面しました。やがて教義は腐



下「そゆえに、あなたが行く、すべての国民に教えるさい」  
ハリー・ファンダーソン画「上」ハリー・ファンダーソン画「下」  
愛弟子ヨハネの肖像／ポール・マン

ペテロはローマで  
十字架の刑を受けた  
と伝えられています。

使徒パウロは  
ローマの獄中で  
死亡しました。

### 使徒パウロ

使徒パウロは、最初の十二使徒の一員ではありませんでした。パウロはサウロと呼ばれたユダヤ人で、何年もの間クリスチャンを迫害していました。しかし、ダマスコへ行く路上で救い主の訪れを受けて改宗しました（使徒8-9章参照）。後にパウロと呼ばれるようになったサウロは偉大な使徒、そして宣教師となりました。パウロはローマが教会を迫害していたころ、救い主への信仰を守って殉教しました。

愛弟子ヨハネは  
パトモス島に  
追放されました。

紀元93年または94年

使徒全員の死についての記録はありません。しかし、愛弟子ヨハネを除く全員が亡くなったことは分かっています。その後、新しい使徒が召されることはありませんでした。教会の指導者の死とともに、聖なる神権の鍵と権能が失われたのです。この権能なしに、新たな啓示、教義、聖文を授かることはできませんでした。

敗し、教会の組織と神権の儀式は不当に変えられていきました。

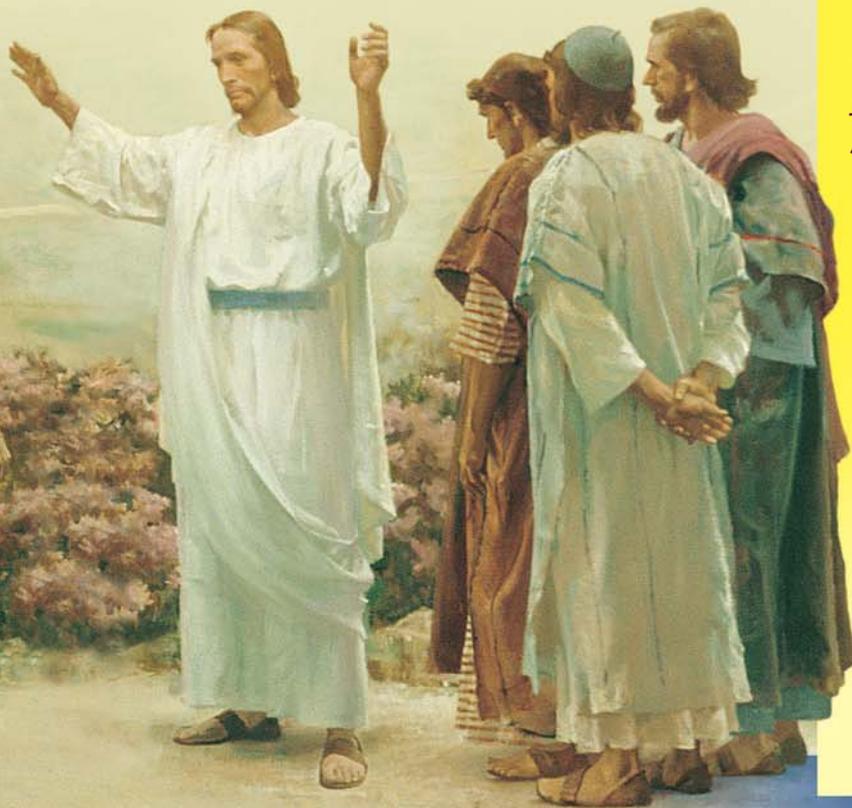
### 使徒たちはどうなったか

救い主の死後、使徒たちは福音を広め、教会は瞬く間にローマ帝国内で発展しました。しかし、救い主が昇天されたのとほぼ同時に、使徒たちに対する迫害が始まったのです。ヨハネの兄弟で最初の十二使徒の一人だったヤコブは、ヘロデによって殺されました（使徒12:1-2参照）。ペテロとパウロも同じく新約聖書の時代に殺されています。

### 使徒ペテロ

ペテロは、救い主の死と復活の後に教会の頭となった人です。ペテロの殉教に関する記録は聖典にはありませんが、救い主と同じように十字架の刑を受けたと伝えられています。また、自分は救い主と同じ死に方をするにはふさわしくないで、逆に十字架にかけられるように頼んだと言われています（ジョセフ・フィールドینگ・スミス『救いの教義』ブルース・R・マッコッキー編、全3巻、第3巻、135-136参照）。

ペテロは忠実にその生涯を全うしました。そして、現代になり預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れたのです。スペンサー・W・キンボール大管長（1895-1985年）は、ペテロについて次のように語っています。「忠実な同僚であるヤコブとヨハネとともに、シモン・ペテロはこの地上に戻り、キリストの福音が失われていた暗黒の時代という淵に橋を架けました。3人はペンシルベニア州にあるサスケハナの川岸に現れ、ペテロは彼ら使徒たちが主イエス・キリストから与えられていた王国の鍵を、年若い二人の預言者に授けました。」（Peter, My Brother, Brigham Young University Speeches of the Year (1971年7月13日), 8)



紀元64年または65年

紀元65年

コンスタンチヌスは  
キリスト教を  
合法的な宗教に  
決めました。



紀元324年

皇帝コンスタンチヌス  
コンスタンチヌスが長年続いた迫害に終止符を打ち、キリスト教をローマ帝国の国教と定めた理由はいまだになぞです。戦いのさなかに示現を見たからだとする資料もあります。理由はともあれ、コンスタンチヌスはキリスト教のバプテスマを受けるようローマ民衆を説得しました。

### 教会はどうなったか

使徒たちが殺されたのは、教会全体が迫害されていたときでした。ローマ皇帝ネロは、紀元65年ごろにクリスチャンを根絶するための法律を作った最初の人です。ネロの統治下で何千人もの人たちが無残にも殺されました。紀元約93年には、皇帝ドミチアヌスのもとで第2期の迫害が始まりました。その後もローマ皇帝によるクリスチャンに対する拷問と殺戮は続きました。この迫害の結果、何千人ものクリスチャンが殉教し、多くの人々が背教していきました。

紀元約324年にローマ皇帝の座に就いたコンスタンチヌスは、何世紀も続いた迫害に終止符を打ち、キリスト教を公認しました。この政策により教会は政府と結びつき、教会の腐敗した指導者はこの世の権力と誉れを求めるようになったのです。

教会の教師たちは、ギリシャ哲学や異宗教から誤った宗教の概念を採り入れ始めました。誤った儀式や典礼も入ってきました。それでも幾らかの真理は教えられましたが、キリストのまことの教会と神権は地上に存在しませんでした。さらに、キリスト教がアフリカ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカなど世界中に

### ニケーア公会議

当時は啓示を受ける預言者がいなかったため、様々な案件についての決定は教会の指導者たちが集まる公会議でなされました。紀元325年、皇帝コンスタンチヌスは、神会を定義するためにニケーア(現在のトルコ)で公会議を開きました。神とイエス・キリストと聖霊が同一の御方か、あるいは別々の御方なのか激しい議論がありましたが、公会議が下した決定は、神会についての理解をさらに混乱させるものとなりました。御父と御子と聖霊が別々の御方であり、それぞれ異なる役割を担<sup>にな</sup>っておられるという真理が失われてしまったのです。

モロナイは  
ニーファイの民の  
背教を伝えました。



紀元400-421年

広まるにつれて、様々な新しい教会が設立され、発展していきました。しかし、主がすでに神権の権能と鍵を地上から取り去っておられたため、その中のどれ一つとしてまことの教会ではなかったのです。

### 聖典はどうなったか

モルモン書を読むと、ユダヤ人によってもたらされた聖典から、たくさんの分かりやすくて貴い部分が取り去られていたことが分かりま

### 誤った習わし

背教の間、正しい権能がないまま多くの儀式が変えられ、新しい儀式が付け加えられました。教会は幼児にバプテスマを施し、水に沈める代わりに、水を振りかけたり、注いだりするバプテスマを行うようになりました。異教の影響や当時の哲学も教会に入り込んできました。例えば、香をたき、聖職者の結婚が禁じられました。また、肉体は邪悪なものであり、神は肉体を有していないと信じるようになったのです。殉教者に対する敬意は、迷信や礼拝に変わっていきました。

教会内の悪事のために御霊<sup>みたま たまもの</sup>の賜物はなくなり、人々は真の霊的な賜物を否定するようになりました。啓示がないため、神の靈感によってではなく人が教会を管理し、その結果、組織は変わってしまいました。教会の職は売買され、投票によって決められました。



活版印刷により、  
聖典が広く  
普及するよう  
になりました。



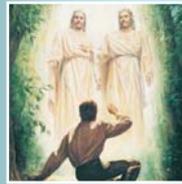
紀元1450年

宗教改革者は、  
福音の回復に  
必要な環境を  
整えました。



紀元1500-1600年

父なる神と御子  
イエス・キリストが  
ジョセフ・スミスに  
御姿を現されました。



紀元1820年

神権の権能が  
回復され、  
教会が組織  
されました。



紀元1829-1830年

す(1ニーファイ13:23-29参照)。信仰箇条第8条にはこう記されています。「わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる。」

背教の時代に聖書から貴い教義が失われました。それらは不注意により、あるいは、靈感を受けないまま翻訳したことにより、さらには、故意に真理を取り去ろうとしたことにより失われました。この失われた教義と真理は回復されなければなりません。預言者ジョセフ・スミスに明らかにされたモルモン書とそのほかの聖文が、福音のこれらの分かりやすくて貴い多くの部分を取り戻してくれたのです。

### 暗闇の中の光

主は大背教が起こることを御存じでした(2テサロニケ2:3参照)。そこで、福音が回復される道を備えてくださいました。1820年の最初の示現に至るまでの数世紀の間、聖書は様々な言語に翻訳され、活版印刷の開発に伴って広く普及していきました。けれども教会は、大衆が神の言葉を読むことを望まなかったため、聖文を読んだり、所有したりした多くの人たちが投獄され、殉教したのです。しかしこの時期、主から靈感を受けた人たちは、権力を乱用し、邪悪な行為を行っていた教会と闘うようになりました。これが宗教改革と呼ばれる時期です。最終的に、この宗教改革が、主の権能と真理を

地上に回復できる環境を作り上げました。

今日、わたしたちは「全地の面に[ある]唯一まことの生ける教会」の会員になることができます(教義と聖約1:30)。それは、主が福音を回復され、教会を組織するための神権の権能を、預言者ジョセフ・スミスに授けられたからにはほかならないのです(教義と聖約27章;65章;128:18-21参照)。

わたしたちは祝福されて、福音が完全に回復されたこの時代に生を受けました。それは教会に行き、証を述べ、聖文を読むことができる時代です。■

西半球における背教  
モルモン書には、  
古代アメリカ大陸に  
おけるキリストの教  
会が紀元約400年  
には消滅したことが  
書かれています。キ  
リストを否定しな  
かった人々はすべて  
殺され、ニーファイ  
人の3人の弟子は  
ニーファイの民から  
取り去られてしま  
いました。モロナイが  
一人残され、ニー  
ファイ人の滅亡を伝  
えました(モルモン  
8:3, 10-11;モ  
ロナイ1:2参照)。



トニー・ハズマン(S&S) 画家 © Hulton Archive/Getty Images  
上 「聖書が神の御言葉」 画家 © Hulton Archive/Getty Images  
「あなたにわたしたちの言葉を授けよう」 スティーブ・スミス 画家 © Hulton Archive/Getty Images  
「最初の示現」 テル・パーソン 画家 © Hulton Archive/Getty Images  
「主が御姿を現された」 ジョセフ・スミス 画家 © Hulton Archive/Getty Images  
「主の御姿を現された」 ジョセフ・スミス 画家 © Hulton Archive/Getty Images

日曜日午前10時に、  
オルセン家族の  
引っ越しを手伝う。  
ジェフに手伝いを  
頼めるか。

# 福音を 伝えるための

# 7つの 教え

福音を伝える人々  
近所の家族  
ジョーンズ夫妻  
(トムとスー)  
フランク・アンダーセン  
銀行員  
スミス家族

実行すること  
木曜日に近所の大を  
夕食に招待する。  
金曜日の夜にトムとスーを  
観劇に連れて行く。  
来週スミス家族を  
夕食に招待する。  
フランクとゴルフに行く。

ジョニーの  
伝道資金用に  
銀行口座を開設する。

スミス家族を  
夕食に招待するために、  
もう一度電話すること。

ラモス家族を  
宣教師と一緒に  
家庭の夕べに  
招待する。

金曜日の  
観劇チケットを  
受け取りに行く。



北アメリカ北東地域  
地域幹部七十人  
クレートン・M・クリステンセン  
クリスティン・クイン・クリステンセン

主の方法に従うなら、  
宣教師のために  
教える人を探すことは、  
簡単で自然なこと  
となります。

**救** い主は昇天する前に、弟子の小さな一団を呼び寄せて命じられました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民に教えよ。」(欽定訳マタイ28:19から和訳) これはとてつもない課題のように感じられますが、十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老は、信仰をもって行動を起こすよう呼びかけています。「この課題に対して、『それは無理だ。絶対にできない』と即座に言う人もいるでしょう。わたしたちはそれに対してはっきりと申し上げます。『恐らく困難でしょう。しかし、どちらにしてもわたしたちは行きます。』」

福音を伝える能力は、ごく少数の末日聖徒にだけ与えられ、ほかの多くの人に対して閉ざされている「賜物」<sup>たまもの</sup>ではありません。わたしたちは自分自身や周りの人々の経験から、一つの結論に達しました。すなわち、もし主の方法に従うなら、宣教師のために求道者を探すのは、すべての教会員にとって簡単で自然なこととなるという結論です。主の方法について、わたしたちが学んだ7つの教えを紹介しましょう。

### 「理想的なモルモン」と「深い友情」

最初の二つの教えは、わたしたちが良い会員宣教師になろうと努力し始めたばかりのころに学んだものです。だれが福音に興味を持つか、または持たないかを予想することはできない。友情を築くことは、人々に福音を学ぶよう勧めるための前提条件ではない。この教えによって、これまでよりも容易に福音を伝えることができるようになりました。この二つの原則に気づいたのは、わたしたちがまだ新婚で、ワードの専任宣教師から福音を伝えられる人のリストを作るよう依頼されたときのことです。

た。求道者として選んだ人々を、リストのいちばん上の人から順に、12の過程を経て徐々に「備え」るのです。まずは夕食に招待し、次に文化的な活動と一緒にいきます。第6, 7, 8の段階では教会に誘い、モルモン書を渡し、宣教師から福音を学ぶよう誘います。そして最終段階である12番目の過程は、もちろんバプテスマです。

わたしたちは宣教師に言われたとおりリストを作り、福音に最も興味がありそうな人を上位に書きました。リストの上位に名を連ねた人たちは、まるで「理想的なモルモン」のようでした。清い生活を送り、家族を大切にすることは、末日聖徒の価値観と似通っていました。わたしたちは次に彼らとの友情を深めることにしました。ただでさえ忙しい生活の中に、さらに様々な社交活動を組み入れました。きっと福音に興味を示してくれるだろうと予想したこの人たちは、第6段階から第8段階に進む間に、徐々に拒むようになりました。わたしたちの勧めが不快だったわけではなく、現在の宗教観で十分幸せに暮らしていると言うのです。数か月にわたって熱心に働いた末、結局、福音についてもっと知りたいという一人も見つけることができませんでした。

それから、ワードに新しい宣教師が転任して来ました。わたしたちの過去の苦い経験を知らない彼らは、我が家を訪ね、以前取り組んだものと同じ一覧表をテーブルに広げました。知っている人のリストを作り、友情をはぐくんで、福音を教えるために備えてほしいのです。「この表は前にもやりましたよ。莫大ばくだいな時間をかけて取り組んだけれど、収穫はゼロでした。」わたしたちは訴えました。そして、前回宣教師から福音を聞きそうだと判断した候補者全員に心から忠実に働きかけたことを説明しました。

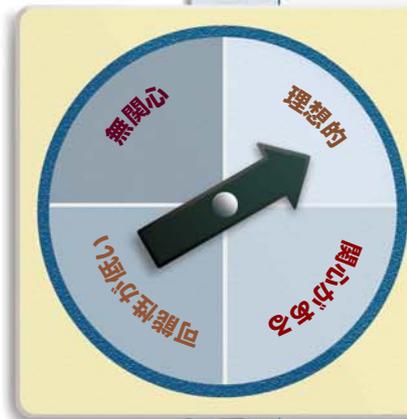
どうしても求道者の紹介を必要としていた宣教師たちは、熱心に言いました。「宣教師が訪問できる人を、ただの一人も御存じないとおっしゃるのですか。」そこでわたしたちは、前回リストに記入しなかった4組の夫婦の名前を挙げました。その中の一組はテラー夫妻(仮名)でした。せっかく訪問しても時間の無駄になるかもしれないと、わたしたちは宣教師にあらかじめ釘くわぎを刺しました。ケンはいかなる宗教団体に対しても否定的な感情を抱いていました。加えて、ケンケンは頑強なラグビー選手で、大酒飲みでした。

しばらくすると、長老たちは喜び勇んで帰って来ました。

テラー夫妻は宣教師を招き入れ、最初の福音のレッスンを受けたのです。しかも次の約束もしていました。わたしたちは宣教師のレッスンに参加するうち、次第にテラー夫妻と親しくなっていました。彼らが福音に興味を持っていたとは、思いも寄らないことでした。

この経験から、だれが福音に興味を持つか、または持たないかを単に予想することはできないと分かりました。リストを作るとき、その人の生活様式、習慣、外見がそれらしくないという理由から自分自身で判断を下し、多くの人を除外してしまうことがあります。けれども教会に加わった人のことを考えてみると、最初に「教会員になりそうな人」として選んだ中から改宗した人は明らかにわずかでした。

福音を受け入れる人の多くは、問題を抱え、助けを必要としている人々です(アルマ32:2-3参照)。福音に添った生活が人々を変えるのです。すべての人が、イエス・キリストの



最初の二つの教えによって、もっと簡単に福音を伝えられるようになります。

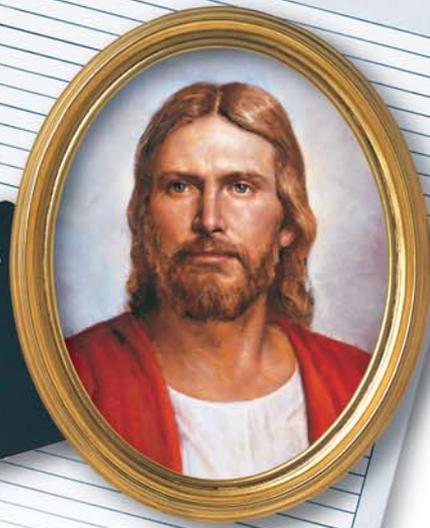
1 だれが関心を持つか、または持たないかを予想することはできない。

2 友情を築くことは、人々に福音を学ぶよう勧めるための前提条件ではない。



ELDER EVANS  
THE CHURCH OF  
JESUS CHRIST  
OF LATTER-DAY SAINTS

ELDER BUNDERSON  
THE CHURCH OF  
JESUS CHRIST  
OF LATTER-DAY SAINTS



福音を受け入れるか、または拒む機会を得られるようにするには、わたしたちが先入観を持たずに、すべての人を救い主のもとに招く必要があります。

またこの経験から、福音を学ぶよう勧める前提条件として、これまでより深い友情を培う必要はほとんどないということも学びました。隣人、同級生、職場の同僚、店員、同じバスに乗っている人々の大部分とは、友情をさらに深める必要はありませんでした。

例えば専任宣教師は、友情をはぐくむ前に福音を教える約束をします。宣教師はだれとでも話をします。教える機会を通して信頼関係が築かれるのです。福音に関心を抱いて宣教師から学ぶ可能性は、深い友情とはまったく無関係であることを、この20年間目の当たりになりました。しかし、その逆、つまり福音を学ぶことを承諾した人々との間には、最終的にバプテスマを受けるか否かは別として、友情をはぐくまれます。また呼びかけに応じない人々も、わたしたちの愛や神の愛を感じるなら、キリストの福音を学ぶよう勧めても不快に思うことはないということも学びました。非常に個人的で、しかも重要なものを伝えたいというわたしたちの思いに対して、多くの人が感謝の気持ちを表してくれました。

### 宣教師を信頼する

クレートンの職場の同僚ジャックが我が家で専任宣教師から福音を学んでいたとき、3つ目の教えを学びました。二人の宣教師のうち、一人は伝道の経験が浅く、アルゼンチン出身の先輩同僚はまだ英語に苦労していました。その結果、何か疑問が生じたとき、ジャックは当然のようにクレートンに質問しました。クレートンはこの二人の宣教師より自分の方が分かりやすく簡潔に教えられるという自信をもって、ジャックの質問に答えました。宣教師が概念を教え、ジャックが質問をし、クレートンが答える。そして宣教師が次の概念を教えるということを繰り返していたのです。ところがジャックのある質問には、クレートンは答えること

自宅で宣教師がレッスンを行って  
いたときに、3つ目の教えを学びました。  
**3** たとえ経験不足でも、  
宣教師は福音をよく教えることができ、  
信頼することができます。

ができませんでした。クレートンが黙り込んでみると、アルゼンチン出身の長老が深遠な答えを述べました。それは聖霊によるものでした。ジャックが次の質問をしたとき、クレートンは先ほどの長老がもう一度答えるか様子を見ました。そして長老が答えたのです。わたしたちはこのとき、福音を伝えるうえで重要な教えを学びました。たとえ経験不足でも、宣教師は福音をよく教えられると信頼することができますのです。なぜなら、主は御自身が召された者を、ふさわしくされるからです。

### 必要とされること

クレートンがホームティーチングを行っていた、ある年配の姉妹の家の地下室から古くて重い冷蔵庫を運び出すときに、4番目の教えを得ました。手を貸してくれる人が必要だったのですが、ワードの教会員の中から見つけることができませんでした。困り果てたわたしたちは隣人のジムに頼みました。ジムは教会員ではありませんでしたが、喜んで引き受けてくれました。ひどく蒸し暑い夏でしたので、着ているものは汗でびしょぬれになりました。階段の踊り場で、バランスを取りながら冷蔵庫を床に下ろしたとき、ジムが言いました。「ところでモルモン教会のことを教えてくれないか。」

額の汗をぬぐいながら、クレートンは答えました。「言ってみれば、今ほくたちがやっていることが教会の教えそのものなのさ。」クレートンはそれからホームティーチングの役割について説明し、この姉妹がどれほど自分たちを必要としているかを話しました。またわたしたちはジムに、この地域では大学院生とその家族が頻繁に転出入するので、引っ越しの荷物運びを家族で手伝っていることを話しました。

ジムは驚きました。「ほくたちの教会では、ただ説教を聞いて家に帰るだけだよ。だれがほくの助けを必要としているかなんて、考えたこともなかった。だれからも頼まれたこと

宣教師の名前/スティーブ・バンダーソン、撮影は禁じられていません。「主イエス・キリスト」デル・バノン画、手袋S/写真 © PHOTODISC

もないし、援助を申し出ることもできない。もし人手が必要ならまたほくに声をかけてくれるかい。ほくはこういうことが好きなんだ。」クレートンはこれまでジムに教会の話をしようとしましたがうまくいきませんでした。ジムが関心を示さなかったのです。けれども人を助けるという機会に、彼は興味を示しました。

この経験から学んだことは、生活に満足している人は、奉仕する機会を求めているということです。キリストの光は、奉仕したいという望みを生みます。教会について学ぶようだれかに勧めるとき、教義ばかりを強調すると、相手がまず求めているものが分からなくなります。ともに奉仕するとき、彼らは人の必要を満たすという、教会の重要な役割に気づくのです。

教会の業を行うときに教会外の人に助けを求めるなら、その人は必要とされていると感じ、御霊を感じやすくなります。このような状態になると、人はしばしば自分の生活に何か欠けていることに気づきます。わたしたちが神の御心を行えるよう助けてくれたことで、ジムは教会の話を知り、ワードの活動に参加したりしたときよりも、もっとよく教会について理解することができたのです。その結果、ジムは宣教師から福音を学んでみないかというわたしたちの誘いに応じました。

## 成功とは

教会が真実であることや教会の良さに気づいているにもかかわらず、3度目に宣教師の話を知った後、ジムはその後の約束を断りました。いったん断った人の多くが、後に再び福音に耳を傾けバプテスマを受けることは分かっていたのですが、わたしたちは落胆しました。けれどもこの経験から、会員伝道に関する5つ目の価値ある教えを得たのです。わたしたちが宣教師として成功したことに気づいたのです。ジムは素晴らしい友人になりました。しかも彼がイエス・キリストの福音をさらに深く理解する素晴らしい機会を提供できました。バプテスマの水に入るかどうかは別として、ジムは自らの永遠の成長の道を歩み始め、重要な正しい選択をすでに何度か行ったのです。わたしたちは皆、失敗を恐れます。しかし、人に真実を学び、受け入れるよう勧めること自体が、会員宣教師としての成功であると知ると、福音を伝えることに対する恐れはほとんどなくなります。

## 期日

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老の勧告に

従う中で、6番目の教えを学びました。それは、忙しい生活の中であまりにも多くのことを行わなければならないため、期日の設定が必要であるということです。好むと好まざるとにかかわらず、わたしたちは、期日が定められた要件を優先的に終わらせ、締め切りのない活動は先送りにする傾向があります。宣教師の業のように、永遠にわたって重要で報いの多い責任でさえ、期日を明確に設定しなければ、後回しになってしまうでしょう。

わたしたちへの助言として、バラード長老は定期的に「日付を書き留める」よう勧めました。バラード長老は、名前を書き留める必要はないと言明し、むしろ主との約束として、期日を設定するよう勧告したのです。そしてあらゆる機会をとらえて、できるだけ多くの人に福音を宣べ伝えるなら、主はわたしたちを祝福し、設定した期日までに、勧めに応じて宣教師の話に耳を傾ける人に会わせてくださるだろうと約束しました。<sup>2</sup> わたしたちは二人でバラード長老の勧告を受け入れ、宣教師

生活に満足している人の多くが、  
奉仕の機会を求めているという事実から、  
4番目の教えを学びました。

**4** 教会の業を行うときに  
教会外の人に助けを求めるなら、  
その人は必要とされていると感じ、  
御霊を感じやすくなる。



から福音を学ぶ人を毎年見つけてきました。毎回、よく祈って期日を設定します。すると、主は福音を伝える人に必ず会わせてくださるのです。

けれども、福音を伝える人は容易には見つかりません。毎日祈り、頻繁に断食し、福音の話をする機会を作り出す必要があります。普段の会話の中で、いわゆる「モルモン用語」を使うとうまくいくことが分かってきました。教会の活動、伝道に出ている子供たち、教会の責任を通して得た経験などについて話すのです。教会で使う言葉を用いるとき、それはまるで扉を開けて、教会について話すために入って来るような人を誘っているようなものです。扉から入ることを選ぶ人はそう多くありませんが、それでもよいのです。しかし時折、教会について聞いてくる人がいます。そんなときには質問に答えます。そしてふさわしいと判断したら、次の扉を開けます。つまり教会の集会や自宅に誘い、教会についてもっと話

5番目と6番目の教えは、成功とはどういうもので、  
どうしたら成功できるか教えてください。

5 人々に真実を学び、受け入れるよう  
勧めるとき、わたしたちは  
会員宣教師としての成功を取めている。

6 忙しい生活の中であまりにも多くのことを  
行わなければならないため、  
期日を設定する必要がある。

招待状

をするのです。わたしたちは多くの人から断られました、受け入れてくれた人もいました。結果がどうであれ、相手がわたしたちの愛を感じるなら、誘ったことに感謝してもらえることが分かりました。

数年前、クリステンセン長老は1月31日という期日を設定しました。多くの人に声をかけ、宣教師に会うように勧めたにもかかわらず、1月の初めになっても、関心を示す人は現れませんでした。クレートンは、1月20日の学会に出席するために、ハワイのホノルルへ行くことになっていました。このような多忙なスケジュールでは、往復の飛行機で宣教師を紹介する人に出会うしかありませんでした。ほかにチャンスがなかったのです。そのため日々の祈りの中で、自分の勧めを受け入れる人を、機内で隣席に座らせてくださいと神に願い求めました。

努力を尽くして臨んだ結果、隣席の人物を見たクレートンは目を疑いました。ビニーというその男性は、派手なアロハシャツの前が大きくはだけ、胸毛の上に三連の金のネックレスを光らせていたのです。ビニーは毎年11か月間熱心に働いてハワイに行く資金をため、冬の1か月をハワイで女性を追いかけて過ごすのだと言いました。落胆しました。福音を紹介できる人を求めて熱心に努め、祈り続けたのです。その結果、隣席に来たのは、宗教とはまったく無縁そうな男性でした。がっかりしたクレートンは、とりあえず本を読み始めました。

客室乗務員が昼食を配ると、クレートンはひとまず読み物を置き置いて、ビニーに話しかけました。ビニーはクレートンにハワイは初めてかと聞きました。クレートンは、韓国で末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として奉仕する前に、ライエの語学研修学校にいたと伝えました。驚いたことにビニーは持っていたフォークを置くと、こう言ったのです。「では、あなたはモルモンなんですね。ここ数年おかしなことが起きるんですよ。これまで宗教に関心を持ったことはなかったんですが、モルモンについて知りたいという気持ちが次第に強くなっていくんです。なぜか分かりません。教会について少し教えていただけませんか。」

すばらしい御霊に包まれ、それからの3時間、二人はイエス・キリストの福音について話し、信仰筒条を1条ずつ論じました。その後ビニーは何度も、教会について教えてくれてありがとうと、感謝を述べました。ハ

ワイに着くとクレートンは、ビニーの住む町にも宣教師がいるから、休暇が終わって家に帰ったら宣教師の訪問を受けてみないかと誘いました。するとビニーは



ホノルルにも宣教師はいるのかと尋ねてきました。教会の言葉を使って会話の扉を開いたこと、またビニーに対する先入観を押しとどめたことによって、クレートンは自らの祈りに対するすばらしい答えを得たのです。

### 一定であり、変わることがない

この経験を通して7番目の教えを学びました。教会の奉仕に忙しいとき、行って神が命じられることを行うなら、神が奇跡を起こして祝福して下さることを期待できるのです(1ニーフアイ3:7参照)。宣教師に紹介する人を見つけられるかどうかを左右する過程において、神の役割は一定であり、変わることはありません。神は常に約束を守ってくださいます。違いを生み出すのは、わたしたちが献身し、従順になり、奇跡を待ち望む信仰を持っているかどうかなのです。一般の教会員はもちろんのことワードやステーク(支部や地方部)を指導する人は多忙であるため、この簡潔な信仰を行使する必要があります。なぜなら、もし自ら今も福音を伝えている経験について話せないなら、預言者が求めている会員宣教師としての召しを果たせるよう、人々を鼓舞することはできないからです。

### 祝福

まるで天性の賜物を与えられているかのように、容易に福音を伝えることのできる「生まれながらの宣教師」のような人々がいます。わたしたち夫婦は伝道に関して生まれつきの才能は明らかに与えられていません。最初は困難な仕事を無理強いされているように感じました。けれどもこれらの教えを学び、従ったとき、自分たちに合った自然な方法で福音を伝えることができるようになりました。

伝道の業を行うことで、わたしたち家族が得た祝福は数え切れません。この業を通して、家庭と心に神の御霊がもたらされました。例えば、4年ほど前、クレートンのかつての教え子であるスニルを、わたしたちの家で宣教師から福音を学ぶよう招きました。宣教師はすばらしい働きをしました。レッスンの終わりに二人の宣教師が、その日教えたことはすべて

7番目の教えは、  
神が常に約束を守られることを教えてくれます。

7行って神が命じられることを行うなら、  
神が奇跡を起こして祝福して下さることを期待できる。

真実であると証<sup>あかし</sup>しました。わたしたちもそれぞれ証を述べました。そしてクレートンが一人の宣教師に閉会の祈りを依頼したとき、息子のスベンサーが手を上げて言いました。「お父さん、ほくもちょっと話していい?」

スベンサーは立ち上がると、澄んだ清い目でスニルをじっと見詰めながら言

いました。「スニル、ほくはまだ11歳だけど、今夜宣教師が教えたことが真実であることを分かってほしいです。神様は生きておられて、スニルもほくも神様の息子であることを知っています。ジョセフ・スミスが神様のほんとうの預言者であることを知っています。」スベンサーが証を述べたとき、力強くすばらしい御霊が部屋中にあふれました。

翌日、スニルから送られてきた電子メールには、レッスンの中で宣教師とわたしたちが信仰について分かりやすく説明したことへの感謝の気持ちが書いてありました。そしてこう記されていました。「息子さんが立ち上がって証を述べたとき、これまで感じたことのない特別な感情がわき上がりました。これが皆さんの言う神の御霊なのでしょう。」

福音を伝えようとする中で、生活の中にたくさんの祝福が注がれ友情を築くことができました。しかし、数ある祝福の中でも最もすばらしい祝福は、聖霊の力を通して、家族で新しい友人や昔からの友達に福音を教えるときに、いつも宣教師の助けを受けたことです。それは我が家の5人の子供たちの信仰に大きな影響を及ぼし、家庭に神の御霊を注いだのです。■

### 注

1. 「死者の贖い」『聖徒の道』1976年2月号, 129参照
2. 「伝道の目標」『聖徒の道』1985年1月号, 16-18参照。「福音の宣言」『聖徒の道』1987年1月号, 34-37も参照

# 質疑応答

わたしは福音を愛していますが、福音について人に話すことに恐れを感じます。  
どのようにすれば恐れを克服できるのでしょうか。

## 『リアホナ』からの提案

**伝**道することに慣れた会員であっても、時には福音を分かち合うことに不安を感じることもあります。しかしそんなときは、ほかの物事に対する恐れを克服するのと同じ方法でその恐れを克服しています。すなわち、恐れを信仰に変えるのです。

聖典は励ましの言葉にあふれています。「恐れてはならない、わたしはあなたを助ける。」(イザヤ41:13)「備えていれば恐れることはない。」(教義と聖約38:30)「<sup>おおく</sup>というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する<sup>おおく</sup>霊ではなく、力と愛と<sup>つつし</sup>慎みとの霊なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること……を、決して恥ずかしく思ってはならない。」(2テモテ1:7-8)

恐れを力と愛に変える信仰をはぐくむには、努力と実践が必要です。ただ待っていても信仰は生まれません。養い育てなければなりません。証を述べる<sup>あかし</sup>簡単な方法を考えることから始めましょう。手紙に証を書くこともできます。あるいは1週間、毎日日記に証を書くこともできます。証を書くことに自信を持てるようになったら、<sup>せいさん</sup>聖餐会や家庭の夕べで、あるいは親しい友人に証を述べてみましょう。証を述べる力を身に付けると、自信と信仰も深まるでしょう。

信仰をはぐくむことにより  
恐れを克服できます。

信仰には行いが必要です。  
話しやすい状況で  
福音を分かち合う練習を  
しましょう。

人の質問に  
答える準備として、さらに  
知識を増し加えましょう。  
準備をすれば、  
恐れずに福音を  
分かち合えるように  
なるでしょう。

恐れを克服するように  
努めながら、  
福音を分かち合うという  
義にかなった願いを  
さらに強めて  
いきましょう。

質問されても答えられないかもしれないと不安に思っているのなら、少し下準備をしておくで役立つでしょう。主はハイラム・スミスにこのように言われました。「わたしの言葉を告げようとししないで、まずわたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊<sup>みたま</sup>とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11:21)

聖典や教会が発行している資料を読み、福音に関する知識を深めましょう。パンフレットや機関誌などを渡してもよいでしょう。**Mormon.org** は、自分の知識を深めるのにも、人に紹介するのにも良いウェブサイトです。もう少し勇気を出せるように祈りましょう。忘れないでください。すべての質問に答えられないとしても、だれかに尋ねたり、資料を調べたりすることができます。

十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は次のように述べています。「福音を分かち合いたいという望みの強さは、個人的な改心の度合いを測る大切なはかりの一つなのです。」(「福音を分かち合う」『リアホナ』2002年1月号、8)あなたはその望みを持っています。ですから、福音を分かち合う練習をしながら、実行に移せるまでその望みを育てていけばよいのです(アルマ32章参照)。



写真/ジョン・ルーク、写真はイメージです

## 読者からの提案



あなたの恐れは自然なものです。宣教師の同僚として伝道に参加できないか尋ねてみてください。あなたの家で福音のレッスンを教えてもらい、そのときに証を述べましょう。しかし、福音を分かち合う機会が得られるよう天の御父に祈り求めることが何よりも大切です。主は、あなたに述べてほしい言葉をあなたの心と与えてくださるでしょう。

ミズーリ州スプリングフィールド南ステーク



マウンテンホームワード  
ビッキー・ハム, 17歳

以前、わたしは福音について人に話すことをいつも怖いと思っていました。でも、自分の証や、福音が真実であると知っていることから感じるすばらしい気持ちについて考えてみてください。伝道の経験ができるように天の御父に祈り、導きを求めてください。そうすれば、きっと教会について話すことが好きになり、何度でも人に話したくなるでしょう。

ドイツ・デュッセルドルフステーク

ボンワード  
デナ・ジル・バーセル, 16歳

イエス・キリストは御自分の業とともに働くようわたしを召されたこととセミナーで学びました。第三ニーファイ第12章13節から16節を通して、わたしは自分が光であり、地の塩であることを理解しました。そして、主を愛するなら、御言葉に従うべきであることも知りました。わたしはこのような知識を得ることによって恐れを克服しました。

ハイチ・ポルトープランスステーク  
カルフルワード  
ジャン・ギャリー・ギロ, 17歳

この偉大な業を愛する気持ちがあるので、福音について話すことができます。よく祈り、聖文を読み、セミナーに出席し、聖霊の導きを求める必要があります。そうすれば、語るべき言葉が分かるでしょう。

ベネズエラ・エルティグレステーク

カンタウラワード

セザール・A・フローレス・バリオス、15歳



親しい友人に話してみれば、話しやすいと感じるでしょう。説明しやすい福音の標準から話を切り出せば、ほかの標準についても話しやすくなります。一人の友人に話

した後は、だれにでも話せるようになるでしょう。

ニューハンプシャー州コンコードステーク

キーンワード

グレッチェン・シレマツ、14歳

人がどう考えるかは重要でなく、天の御父がどのようにお考えになるかが重要なのです。もしわたしがおいしいごちそうを食べていて、友達がそばにいたら、無視するようなことはしません。また、ただレシピを読ませるだけで済ますようなこともしません。一緒に食べるように誘うでしょう。

アラスカ州ワシラステーク

パルマー第3ワード

クリスティーナ・M・ハロップ、16歳



わたしは主を信頼し、御霊の導きに従うことを学びました。主がそばにいてくださるのだから、恐れる必要などないことを思い出せばよいのです。御霊が助けてくれます。

ウェストバージニア州チャールストンステーク

パーカーズバーグワード

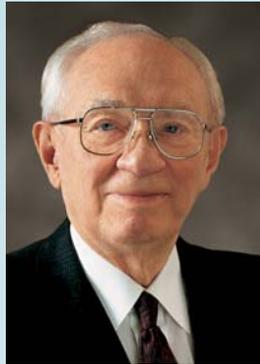
アンバー・ウィルソン、14歳

この恐れを克服するために、もっと早く福音を知っていればどんなによかったらと思うます。友達や家族も福音を早く知る必要があります。教会で参加する活動、そして福音がもたらす喜びについて熱心に話さなければなりません。人は、わたしたちの幸福や信仰がどこから来るのかを知りたいと思うでしょう。

ブラジル・イタチバステーク

ブラガンサ・パウリスタワード

エビラ・フェルナンダ・デ・カンポス、19歳



**皆**さんの努力が恐れに負かされることのないようにしてください。……恐れは神からではなく、悪魔から来ます。すべての真理の敵は、皆さんの心に、あえて努力はしたくないという気持ちを与えたいと思っています。恐れを退けてください。真理と義と信仰の大義に雄々しくあってください。今、これを皆さんの生き方にしようと思ったら、再び決意する必要はないのです。

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

「生ける預言者の言葉」

【聖徒の道】1998年6月号、26

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



恐れは、愛が全<sup>まっ</sup>うされるときに消えるでしょう(1ヨハネ4:18参照)。完全な愛の賜物<sup>たまもの</sup>を求めて熱心に祈り、愛をもって友人に接しましょう。笑顔で助けの手を差し伸

べ、感謝を表しましょう。そうすることにより、恐れを克服できるだけでなく、福音の祝福の光を輝かすことができます。

アイダホ州ボカテロ伝道部

船井友彦長老、19歳



まず始めは友人になることで恐れを克服できます。そうすると、人に証を述べるのがよりたやすくなり、御霊が相手の心の琴線に触れることができます。

ブラジル・ジョアンペソア・ハンジェルステーク

バレンチナワード

アン・ディニス、16歳



勇気をもって人に福音を伝えるには、福音についての証がなければなりません。証に導かれるようになりましょう。恐れを克服する方法を探しましょう。また、恐れを克

服できるように祈りましょう。

コネティカット州ニューヘブンステーク

サウスベリーワード

アロン・マイケルソン、13歳

## あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する意見を、氏名、生年月日、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて、2005年3月15日必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——Questions and Answers 3/05

50 East North Temple Street, Floor 24

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メールアドレス——cur-liahona-imag

@ldschurch.org

## 質問

「友人は教会になじめないと感じています。彼女が教会で歓迎されていると感じられるように助けるにはどうしたらよいでしょうか。」 ■

## 神会に関する知識を 喜びとする

**以**下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々も同様に分かち合うよう勤めてください。

**ジョセフ・スミス歴史-1:17**—「わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方……を見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」

**わたしたちは神会の御三方の性質について何を知っているでしょうか。**

**大管長 ゴードン・B・ヒンクレ**—「わたしは……永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じています。わたしはこれら御三方の名によってバプテスマを受けました。これら御三方の名によって結婚しました。御三方が実在の、別個の御方であられるということには、何ら疑問の余地はありません。……この御三方がわたしたちに関心を寄せ、わたしたちのことを深く心にかけておられることは、奇跡の中の奇跡、驚異の中の驚異です。御三方はわたしたち一人一人とかかわりをお持ちです。わたしたちは御子を通して御父に近づきます。御子は神の御座でわたしたちの執り成しをしてくださる御方です。わたしたちが御子の名によって御父にこのようにお話できることは、何とすばらしいことでしょう。わたしはこれらの偉大で卓越した真理について証します。

聖霊の賜物と力によってそのように証します。』（「御父と御子と聖霊』『聖徒の道』1998年3月号、8-9）

**十二使徒定員会 L・トム・ペリー**—「〔ジョセフ・スミス〕の経験は、父なる神、御子なる神、聖霊なる神の存在を人類に明らかにしました。こうして、この御三方が宇宙の偉大な管理評議会を構成しておられるとの示現が世に下されました。……それぞれ別個の方々として人類に御姿を現されたのです。……聖霊は……霊の御方です。聖霊は御父と御子の証人として神と御子の属性を人に明らかにし、ともに神会を構成するその御二方について証されるのです。』（「信仰簡条』『聖徒の道』1998年7月号、26参照）

**神会に関する知識を通して、どのように御三方に近づけるでしょうか。**

**十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド**—「〔イエス〕は、……地上に来て語り行われたすべての事柄を通して、永遠の父なる神とはどのような御方なのか、御父が、あらゆる時代と国に住む御自身の子供たちを、どれほど深く愛しておられるのかを示してこられたのです。御子は言葉と行いにより、御自分の父親である天の御父の本質を明らかにし、御父の本質を人が自分で理解できるよう努めておられたのです。主がそうされた理由の少なくとも一つは、時代を問わ

ず、人はだれでも神をさらに愛し、完全に従うようになるには、神についてよく知る必要があるからです。』（「偉大な神の性質』『リアホナ』2003年11月号、70）

**中央扶助協会第二副会長 アン・C・ピンダリー**—「聖約を交わした末日聖徒の女性として、わたしたちは皆、神会の御三方の性質と役割をはっきりと理解していなければなりません。わたしたちのことをよく御存じで、愛してくださっている天の御父に祈ります。イエス・キリストが救い主、贖い主であられることを確信します。御父と御子について教え、証される聖霊の交わりと導きを感じます。こうすることによって聖霊は、この危険な時代に平安と喜びを与えてくださるのです。」

**エテル12:41**—「イエスを求め〔なさい。〕そうすれば、父なる神と主イエス・キリストと、この御二方のことを証される聖霊の恵みが、とこしえにあなたがたの内にとどまるであろう。」



# 先生を 教えました

プリンス・イヘンコロ

**何**年か前のことです。支部の青少年たちと活動に行った帰り、めったに車の通らない道でバスを待っていました。ようやく1台の

車がやって来るのが見えました。その車はわたしたちの前で止まりました。見ると、運転していたのは昔教わっていたエネモア先生でした。何年かぶりの再会です。先生はとてもうれしそうに、大声で言いました。「イヘンコロ、久しぶりだな。大きくなったじゃないか。」先生が車を止めてくれたのはまるで奇跡でした。何時間待っても、車1台通らなかったのですから。おまけにバス代も浮いたのです。わたしたちを乗せて走り出したエネモア先生は「どこに行つて来たんだい」と尋ねました。

「教会の活動に行つた帰りです。」

「そうか、それはいいね。若い人がみんな教会に行ったら、いい国になるだ

ろうね。ところで、どの教会に行ってるんだい。」

「末日聖徒イエス・キリスト教会です。」

「モルモンだって。イヘンコロはモルモンなのか。」

「そうです。」

「あれは教会なんかじゃないぞ。モルモンのことは聞いたことがある。」先生は車を止め、降りるように言いました。わたしたちは先生の言うとおりにしました。

わたしは笑顔で先生に言いました。「車に乗せてくださってありがとうございました。いつか、この教会が真実の教会だと確信されるでしょう。」先生は去って行きました。わたしたちはもう1時間半待ってバスに乗り、家に帰りました。

良い宣教師になるには代価を払わなければならないことを知っています。価値あるものを得るには、その代価が必要です。わたしたちの罪の代価を



払った救い主は、身をもってそのことを教えてくださいました。

エネモア先生に福音を伝えたいと思ったわたしは、先生の家を訪ねました。家の中に入れてはもらえませんでした。教会のパンフレットと機関誌を渡すことができました。

何か月もたって、先生から手紙を受け取りました。手紙にはこう書いてありました。「あの日、君にしたことを赦してください。おわびとともに、心から感謝します。わたしと家族は、以前反対していた教会の会員になりました。今では末日聖徒です。」

エネモア兄弟とその家族は、ナイジェリアのアブジャにある教会の熱心な会員です。神殿で家族の結び固めを受けました。今でもエネモア兄弟から手紙が来て、必

ずこう書いてあります。「ありがとう、光へ導いてくれて。」

生きるためには生活の糧を得なければなりません。意義深い人生にするためには自分のものを人に与えなければなりません。わたしたちは、多くの人に福音を与えて、光をもたらすことができます。人はわたしたちの言葉や行いは忘れるかもしれませんが、そのときに感じた気持ちはいつまでも心に残ることでしょう。出て行って人々に福音の光を分かち合い、平安を感じてもらいましょう。わたしは、この教会の信者だという理由で最初は自分を拒んだ相手に福音を伝えました。その小さな代価に対して、わたしは大きな報いを受けました。■

プリンス・イヘンコロは、ガーナ・アクラ伝道部の専任宣教師です。

教会員だ  
という理由で、  
家まで送って  
もらえませんでした。  
しかしそれは、  
一人のひと  
その家族が福音を  
見いだすきっかけに  
なったのです。





# 義にかなった生活に立ち返る

# ポルノグラフィー を捨てる

ロリー・C・リード

**ポルノグラフィーの習慣を克服しようと努力する人を  
主は助けてくださいます。**

**ポ**ルノグラフィーはますます世に広がり、手に入れやすくなっています。ポルノグラフィーは罪のない娯楽と考える人が大勢います。しかし、教会の指導者はその破壊的な性質について絶えず警告を発してきました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長も次のように警告しています。「世に氾濫し、悲惨な結果を招くポルノグラフィーに近づかないでください。この習慣は洪水のように全世界に広がり、ある一部の人に富をもたらす一方で、その奴隷となった多くの人の生活を破壊しています。ポルノグラフィーに決して近づかないでください。」<sup>1</sup>

痛ましいことに、現代の預言者の勧告をないがしろにした結果、このみだらなものわなにかかっている人々があります。そのような人々は、ほかの多くの中毒と同様、ポルノグラフィーがきわめて断ち切り難い習慣であることに後で気づくのです。

しかし、この習慣を捨てることは可能です。精神分析医として、ポルノグラフィーの習慣を克服しようと闘っているおびたしい来訪者の相談に乗るうちに、ポルノグラフィーを捨てることに成功した人には共通の要素が幾つかあることに気づきました。あらゆるケースに当てはまるわけではないにしても、以下の提案によって、ポルノグラフィーとのかかわりを捨てたいと願うすべての人が、何らかの方向性、あるいは、きっかけを見いだせればと願っています。

## 問題を認める

多くの人は羞恥心しゅうちから自分たちの問題を過小評価します。しかし、主の方法に従うならば、自分の過ちを主に対して認める必要があります（詩篇32：5；アルマ38：14；39：13；教義と聖約5：28参照）。そのような告白は、事実上、自分に正直であることの表れであり、神がすべて見通しておられると自ら認めることにつながるのです。ポルノグラフィーへの関与は、伴侶はんりよ（若人の場合は両親）、監督または支部長にも知らせる必要があります。

ポルノグラフィーを見る人の多くが、伴侶にその行為を打ち明けることで夫婦関係が危険

**このみだらなものわなにかかる人々は、やがてそれが利己心、孤立、秘密主義を助長するものであることを知ります。しかし、勤勉な努力と主の助けによって、ポルノグラフィーの習慣を断ち切ることは可能なのです。**

にさらされるのではないかと心配します。しかしある調査によれば、夫婦がともに問題を解決しようとするならば、ほとんどの場合、夫婦関係は損なわれないことが分かっているのです。時折、伴侶を傷つけるのではないかとこの恐れから、告白を引き延ばす人がいます。このような考え方は、通常、ポルノグラフィーに関する習慣を持った個人が、伴侶の反応や自分の行為が引き起こす結果から自らを守るための単なる言い訳にすぎないのです。そして、ポルノグラフィーの習慣を秘密にしようとするだけで、ポルノグラフィー中毒から抜け出せなくなるのです。しかし、伴侶への不正直は、ポルノグラフィーと同じくらい有害になることがあります。この問題は、いずれ何らかの形で伴侶の知るところとなることが多いのです。配偶者が謙虚にこの問題を告白し、励ましを得て立ち直りたいと懸命になれば、伴侶も援助を提供しやすくなります。

たとえしばらくの間、自分の行為を隠すことができたとしても、その秘密の行為を神に知られずにいることは決してできないのです。ヤコブは次のように語っています。「神はすべてのことを御存じであり、神の御存じでないことはない。」(2ネエファイ9:20)

正直になることで、以前は秘密を知られないために使った精力を別の目的に使えるようになり、問題を明らかにすることで安心感が得られます。事実、たとえ苦痛が伴っても、配偶者に真実を打ち明けられることによって、安心したと報告する伴侶は多いのです。自分の抱く疑念が自らの心の不安定さから来るものではなかったということが分かったからです。正直になり、悔い改めの道を歩み始める人は、<sup>あがな</sup>贖いによって罪の重荷が取り除かれます。またその伴侶も、贖いによって、自分の神聖な信頼に背いた夫または妻を<sup>ゆる</sup>赦す力が与えられるのです。

## 贖いを受け入れる

ヘブライ語で、「贖い」に相当する言葉は“kaphar”という動詞で、意味は「覆う」です。<sup>2</sup>つまり、「贖い」という言葉は、わたしたちが悔い改めるならば、キリストがその憐れみによって、悔い改める人の罪を「ぬぐい去〔り〕」、覆う力をお持ちであることを暗示しているのです(使徒3:19参照)。この過程を終えた結果として、人の罪は「雪のように白く」なり得るのです(イザヤ1:18)。

一方、サタンはポルノグラフィー中毒の人が自分たちの罪を覆い隠すように誘惑します。悔い改めの過程を阻止し、真の意味での癒しの源から目を背けさせようとするのです。こうして、このわなに陥る人々は、ポルノグラフィーの罪に加えて不正直の罪を犯すこととなります。「悪魔はこのようにして

<sup>あがな</sup>  
**贖**いを通して、  
キリストは  
悔い改める人  
の罪を「ぬぐい去〔り〕」、  
覆う力をお持ちです。  
その結果として、  
人の罪は  
「雪のように白く」  
なり得るのです。



人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とす」のです(2ニーファイ28:21)。

アダムとエバの物語から、人を奴隷にしようとするサタンの手口が分かります。神の戒めの一つに背いたアダムとエバは、サタンによって恥辱を知りました。サタンは二人に、体を覆い、隠れるように言いました。同様に、サタンは過ちを犯した人を何とかして神から遠ざけようとします。しかし、主の天使はアダムに次のような指示を与えています。「悔い改めて、いつまでも御子の御名によって神に呼び求めなさい。」(モーセ5:8) アダムとエバは、恐れと恥辱を信仰と信頼に変えることができました。同じように、ポルノグラフィーに苦しむ人も、恐れと屈辱感を主とその贖いに対する信仰と信頼に変えなければなりません。

わたしたちは贖いを受け入れるときに、犯した罪を告白し、自分の選択の結果を受け入れます。自らが課した罪悪感や屈辱感によって自らを罰しようとするれば、不当にも救い主の権威を奪うという誤りを犯すことになります。憐れみを与え判定を下す権利は、救い主が持つておられるのです。わたしたちにあるのは、心を神に従わせ、神が定められた律法に基づいて神の憐れみと正義を受ける権利です。無条件に憐れみを受ける権利はありませんが、神の恵みによって、また打ち砕かれた心と悔いる霊を通して、憐れみを受ける資格が与えられます。この大きな心の変化は、神の息子、娘を不義から聖めるものであり、主への信仰と信頼、そして贖いの力によってもたらされる賜物です。この過程を経て与えられる罪からの贖いは、通常、時間を要しますが、罪が救されたことは、わたしたちの霊に与えられる御霊による確信を通して最終的に知ることができます。

## 気づく

ベニヤミン王は賢明にも次のように勧告しています。「自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払いなさい。」(モーサヤ4:30) ポルノグラフィーの習慣を克服したければ、生活における傾向と弱点を明確にし、ポルノグラ

フィーにのめり込む要因となる出来事に気づく必要があります。

ある男性は、否定的な感情を抱くと、不快感から逃れるためにポルノグラフィに気持ちが向く傾向があることに気づきました。そのような新たな認識を得た結果、この男性は否定的な感情を抱くいつでも静かに祈りをささげるようにしました。否定的な感情に耐え、不快感から逃避しようという衝動を抑えられるように助けを求めることにしたのです。

あるモルモン書の物語のおかげで、この男性は、主が問題の解決を助けてくださるということを理解できました。アルマの民が束縛の境遇にあったときに、主がその荷を軽くすると約束されたことに注目したのです(モーサヤ24:14参照)。主はその荷を完全に取り除くとは約束されませんでした。同様に、この男性も、人生で経験する否定的な感情を主がすべて消し去ってくださることはなくても、健全な方法で処理できるように助けてくださると期待したのです。

時間を割いて自らの生活について深く考え、特に心から祈って願い求めるときに、これらのことを認識することができます。

## 調整する

ポルノグラフィーの習慣を克服しようとするとき、人は自らの行動あるいは態度を多くの点で改めなければなりません。「心が鈍って」しまっていることが多いからです(1ニーファイ17:45;モロナイ9:20)。鋭敏な心、神との関係、謙虚な態度を取り戻し、希望を持つことを学ばなければなりません。人がその努力をするときに、大切な役割を果たされるのが聖霊です。聖霊の助けによって、人は心の「大きな変化」を経験し、その結果「絶えず善を行う」ことができるようになります(モーサヤ5:2;アルマ5:12, 14。アルマ5:26も参照)。

周囲の人からも助けが得られます。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)はこう教えています。「主はしばしば、人を介して御自身の義にかなった目的を果たされる。」<sup>3</sup> 監



## ポルノグラフィーの定義

ポルノグラフィーの法的、学問的定義、その他の観点からの定義には大きな違いがありますが、実際のところ、ポルノグラフィーとは、性的刺激を与える目的で作られたあらゆる媒体を意味します。また、たとえ性的刺激を与える意図はなくとも、結果的に性的刺激を引き起こすようなものも、その個人にとってはポルノグラフィーと言えます。

もしあるものがポルノグラフィーかどうか疑問に思っているとしたら、そのような疑問自体が、そのものの不快性を暗示しています。そう考えるだけでも、それが避けるべきものだということが分かります。

督または支部長、家族、そして資格あるカウンセラーの助けによって、ポルノグラフィーの習慣を捨てることができます。「天は自ら助くる者を助く」という古いことわざがありますが、そのうえで、わたしたちは自分の周りにある助けを効果的に用いるよう期待されています。

もう一つ必要な調整として、改めて全力で取り組むべきことがあります。日々たゆまず聖文を学ぶことを習慣とするのです。キリストの言葉を定期的によく味わうこと<sup>みことば</sup>によって大きな力を得ることができます。アルマ書では、御言葉は「剣やそのほか、……どのようなことよりも民の心に力強い影響を」及ぼすと教えています(アルマ31:5)。同様に、ニーファイは兄弟たちにこう語っています。「だれでも神の言葉に聞き従って、それにしっかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない……。」(1ニーファイ15:24)

言葉の力は、個人の聖文学習で学んだ原則を実践するときに生活に表れます。誠心誠意で努力するなら、主は義にかなった望みを貫くために必要な力を添えてくださいます。わたしたちが主の言葉を受け入れるときに、主はわたしたちを受け入れてくださるのです。

自分の経験に対する解釈の仕方も改めなければなりません。考え方そのものを変えることが最大の課題となることがあります。ただ単にポルノグラフィーについて考えないように告げること、その行為自体に矛盾があります。何かについて考えないようにするためには、考えないようにする事柄が何なのかを知らなければならず、考えないように努力している事柄そのものに思いを向けなければならないからです。

ポルノグラフィーを捨てられた人の多くが、ただ単にポルノグラフィーについて考えないことに全精力を注ぐよりも、むしろポルノグラフィーを見る行為とは両立し得ない積極的な目標に焦点を当てた方が助けになると語っています。例えば、もっと正直になることに集中すれば、頻繁に正直について考えるようになるでしょう。この方法によって、ポルノグラフィーを排除することに心を向けるあまり結果的にポルノグラフィーについて考えてしまい、それが引き金となって以前よりもポルノグラフィーにますますのめり込んでいく危険を避けることができます。

わたしは相談に来る人々に、自分が受ける誘惑について率直な態度で考えるように、とよく提案します。このアプローチを試みたある男性は、ポルノグラフィーで描写されている女性の振る舞いが実生活とは懸け離れたものであることに気づきました。自分の見ている画像がコンピューター技術を

用いて誇大描写されたものであり、現実描写ではないということが分かったのです。またさらには、アルコールや薬物におぼれ、退廃的な行為に甘んじている俳優もいることを知りました。この男性はポルノグラフィーに率直な態度で取り組み、その本質を見極める努力を払いました。その結果、ポルノグラフィーに対する愛着が一気に消えうせました。善と悪を見極める能力をより十分に培うことができたのです(創世3:5;モーセ4:11参照)。

### 責任を持つ

「たった今、たまたま気づきました」「よく考えずにしていました」「自分でも驚きました」などと言って自分の行動をあまり問題視しない人が大勢います。真に「責任能力がある」人は、自分の行動に責任を持つものです。自分を自発的に変えるためには、誘惑に負ける危険の少ない環境をつくる必要があります。例えば、インターネットでポルノグラフィーの誘惑を受けやすい人は、自分のコンピューターに不適切な情報を遮断でき



### 悔い改め——清めの過程

「サタンは、罪を隠すことができると説得しようとします。しかし、罪が最悪の状況で人目にさらされるように画策するのはサタンなのです。サタンの目的は神の子らを隷属させることです。魅力的で心奪うような誘惑が例外なく根底で企てているのは個人の破滅です。……」

監督に助けを求めてください。監督は悔い改めの方法を教え、助けてくれるでしょう。祈って行動を起こすなら、手を差し伸べてくれる人々のもとに導かれるはずで、悔い改めは清めの過程です。楽ではありませんが、終わりがあります。その輝かしい終着点には、平安と新しい息吹を与えてくれる赦しが、そして新たな始まりという奇跡が待っているのです。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット

「重荷から解放される」『リアホナ』2002年11月号, 87



るフィルター機能を設定したり、コンピューターを使用するときにドアを開けたままにしておいたり、あるいはコンピューターを家族がよく集まる部屋に置いたりするとよいでしょう。<sup>4</sup> また誘惑に負けやすい状況に一人であることがないようにすることもできます。

ダビデ王の物語について考えてください。ダビデ王は「王たちが戦いに出るに及んで、……エルサレムにとどまってい[まし]た。」(サムエル下11:1) 戦いに出るべきでしたが、そうすることなく「屋上を歩いて」いて、バテシバが体を洗うのを見ました(サムエル下11:2参照)。その後、肉欲の誘惑に負けて過ちを犯しました。同様に、ポルノグラフィーの習慣に苦しむ人は、誘惑に屈しかねない状況はすべて避けるべきです。

### 行為を捨てる

ポルノグラフィーの習慣に苦しむ人は、自分の罪に関するある側面について理解する必要があります。それはあまり言及されることはない事実です。すなわち、罪と肉欲によってもたらされるのは、まさしく一時的な快樂だけだということです。それがなければ、罪と肉欲には人を誘惑する力がほとんどないはずですが、ヒンクレイ大管長は、ポルノグラフィーを見る人にとって、それは刺激的だという事実を認めています。「しかし」とヒンクレイ大管長は続けています。「それはあなたを破滅さ

**ポ**ルノグラフィーを  
見る行為とは  
両立し得ない  
積極的な目標に  
焦点を当てることは、  
ポルノグラフィーの  
習慣を克服しようと  
努力する人々にとって  
効果的な手段  
となります。

せませす。』<sup>5</sup> この破滅に至るまでには何か月も、長ければ何年もかかるかもしれませんが。しかし必ず起こります。自分の民の邪悪な行為についてよくよく考えた後で、モルモンは次のように語っています。「彼らに罪のあるままで幸福になるのを主[は]いつでも許そうとなさらない……。」

(モルモン2:13)

主を心から信頼し、ポルノグラフィーを捨てることは、悔い改めの道を歩む人にとって最も記念すべき一歩となるかもしれません。しかしこれこそ、心と思いの変化、神の御心<sup>みこころ</sup>に反する行為を自ら進んで捨てる意志、すなわち悔い改めの本質なのです。こうした行為を捨てることによって、健康的で、意義深い結婚関係から得られる永遠の充足感、神との親密な関係、そして義にかなった生活から生じる自尊心が、一時的な欲望の満足感に取って代わるのです。

### 希望がある

ポルノグラフィーで苦しんでいても、希望はあります。ポルノグラフィーを捨て、その影響力から解放されるには、決意、勇気、忍耐が必要です。この戦いの一部は、神に敵対する戦いではなく、神に従うための戦いとなります。そのときに心は「御父の御心<sup>みこころ</sup>にのみ込まれてしまう」のです(モーサヤ15:7)。戦いの幾つかは心の中にある静かな部屋で行われます。そこには回復に至る道で得られる小さな勝利があり、その勝利は自分だけが知り得るものです。<sup>6</sup> ポルノグラフィーを捨てたいと願うことは、義にかなった心がけであり、自分自身の責任を果たすならば、主はその努力を支えてくださいます。■

ロリー・C・リードはユタ州リーハイ・ジョーダンリバーステーク、ビルグリームズ・ランディング第3ワードの会員です。

### 注

1. "Selections from Addresses of President Gordon B. Hinckley," *Ensign*, 2001年3月号, 65
2. ラッセル・M・ネルソン「贖い」『聖徒の道』1997年1月号, 40参照
3. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 252
4. M・ラッセル・バラード「声を届けさせる」『リアホナ』2003年11月号, 16-19
5. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 37
6. デビッド・O・マッケイ, *Conference Report* 1954年10月, 83; エズラ・タフト・ベンソン「主の歩みにならう」『聖徒の道』1989年1月号, 3も参照

このテーマに関するその他の資料——「前方に危険あり! ポルノグラフィーの落とし穴を避ける」『リアホナ』2002年10月号, 12-17; トーマス・S・モンソン「魔の運び屋——ポルノグラフィー」『リアホナ』2001年11月号, 2-5参照



家族を強める

## 完成へと向かう歩み

このシリーズは、「家族——世界への宣言」の  
個人的な学習と活用へのヒントを与えるものです。

「前世で、霊の息子、娘たちは神を知っていて、永遠の御父として神を礼拝し、神の計画を受け入れました。その計画によって、神の子供たちは肉体を得ることができ、また、完成に向かって進歩して、最終的に永遠の命を受け継ぐ者としての神聖な行く末を実現するために、地上での経験を得られるようになったのです。神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。」<sup>1</sup>

### 重要な鍵<sup>かぎ</sup>である「前世」

この地上に存在する目的を理解し、天与の可能性を最大限に伸ばすためには、人は生まれる前に、天の御父の霊の子供として暮らしていたことを理解しなければなりません。十二使徒定員会会長代理であるボイド・K・パッカー長老は次のように言いました。「前世につ



いての教義を理解すれば、わたしたちが神の子供であり、この世に生まれる前に霊として神とともに住んでいたことが分かります。また、この世の生涯は試しの期間であり、人生は誕生によって始まるものでも死によって終わるものでもないことが分かります。そうなれば、人類が生み出すいかなる害悪にさらされても、人生に目的と意義を見いだすことができるようになります。」<sup>2</sup>

### 肉体の祝福

わたしたちは前世において、地上に来て肉体を得、現世を経験することを知って喜びました。その経験を通してでなければ、完全な天の御父のようになり、やがて天の御父のような生活、つまり永遠の命を享受できるようにならないことを知っていました。ジョセフ・フィール

ディング・スミス大管長(1876-1972年)は次のように述べています。「人の霊、すなわち神の霊の子供たちが、死すべき体をまとってこの世に来る特権を受けるといふ聖約ほど、神聖で誉れあるものはありません。……これまでに与えられた中で最も大きな罰とは、ルシフェルとその使いたちに宣告された罰でした。それは、死すべき体を得る特権を永久に取り上げられたことであり、これこそ最も大きなのろいでした。この霊たちは進歩成長することもなく、復活や永遠の命にあずかる望みもありません。……霊は骨肉の肉体なしには完全になれません。この肉体と霊とは、復活を通して不死不滅と救いの祝福を受けます。……誕生によってこの世に生を受け、死後に復活する以外、霊が永遠の父なる神のようになる方法はないのです。」<sup>3</sup>

### 信仰によって歩む

中には、死すべき肉体を得るといふ条件を満たさずばよく、生まれて間もなく神のもとに呼び戻される子供たちもいますが、そのほかの人々は、さらなる目的を持ってこの地上に来ます。それは、信仰を培うこと、抵抗に遭いながらもキリストのような特質を身に付けること、試しを受けることです。マリオン・G・ロムニー第一副管長(1897-1988年)はこう教えています。「完全への道を歩むうえでわたしたちが今積んでいるこの世の経験は、避けて通ることのできないものです。完全になるために、天の御父のもとを離れてこの地球にやって来なければなりませんでした。そのとき、霊の目には幕が引かれ、前世の記憶は一時的に取り上げられたのです。神はエデンの園においてわたしたちに道徳的な選択の自由を与えられました。そして、いわば善と悪が共存するこの地上でわたしたちに自己の選択に責任を持って生きるようにされたのです。主がそうされたのは、わたしたちが信仰により歩み『何であろうと、主なる[わたしたち]の神が命じられるすべてのことを』行うことによって(アブラハム3:25)、内なる可能性に達するかどうか試すためでした。」<sup>4</sup>

### 永遠に続く家族のきずな

自分に内在する永遠の可能性に到達することを考えるとき、理想として心に抱くのは、永遠の父なる神です。永遠の命を受け継ぐとは、神権の権能によって夫婦として結び固め



この結び固めは自動的になされるものではありません。

先祖を調べ、主の宮において身代わりの結び固めが行われるようにしなければならぬのです。

られ、高く、聖なる所に入ることであり、墓を超えて続くきずなを享受することです。預言者ジョセフ・スミスはこう教えています。「ここでわたしたちの間にある交わりが、そこでもわたしたちの間にある。ただし、その交わりには、わたしたちが今享受していない永遠の栄光が伴う。」(教義と聖約130:2) 親しい友人との友情が永遠に続くことは確かに喜ばしいことですが、わたしたちにとって最も重要なのは、主の宮において神権の儀式を通して家族が結び固められるなら、そのきずなが永遠に続くということです。

この結び固めは自動的になされるものではありません。先祖を調べ、主の宮において身代わりの結び固めが行われるようにしなければならぬのです。ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこう言いました。「わたしたちは地上の諸国民を贖うように求められています。わたしたちなくして先祖が全うされ

ることはありません。またわたしたちも、先祖なくして完全になることはできません。このつながりは神権の中になくしてはならないものなのです。すべての人々を連れ戻し、彼らがいずれかの王国の中で救いと栄光を受けられる場所に就けるようにするためには、今この世に生きている最も新しい世代の人々から、さかのぼって父祖アダムに至るまで一つに結び合わせなければなりません。」<sup>5</sup>

この神権時代に生を受けるのはすばらしい祝福です。わたしたちは、前世について、またそこで自分がなした選びについて教えられ、現世の目的を理解しています。また、家族を永遠に結び固めるのに必要な神権と神殿の儀式を与えられています。そして、この偉大な業をさらに推し進めるために必要なすべてを与えられています。預言者ジョセフ・スミスが語ったように「わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。」(教義と聖約128:22) ■

### 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. 「人生の謎」『聖徒の道』1984年1月号, 29参照
3. Conference Report, 1965年10月, 27-28
4. 「祈り——心の扉を開く鍵」『聖徒の道』1976年10月号, 477-478参照
5. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』340参照

## 登るべきだろうか

マイケル・T・リッチー

**数**週間前のこと、インスティテュートの友達数人と一緒に1泊2日のハイキング旅行を計画しました。わたしたちにはキャンプの豊富な経験、旅先の地域についての知識、どんな状況にもほぼ対応できる装備がありました。しかし、間もなくわたしたちは、聖霊の導きがなければどんな装備も知識もほとんど意味がなくなるということを知ることになったのです。

旅行に出発する数日前は、空も晴れ

上がり、気温もほどほどでした。目的地は、ニューハンプシャー州のホワイト山脈にあるチョコルア山です。この地域の山々は、高さという点では世界のほかの地域ほど誇るものがないのは事実ですが、登山口から山頂までかなりきつい傾斜が多く、ニューイングランド地方は空模様が読めないことで有名でした。

出発の前日に雨が降り

**出**発地点に全員が集合すると、

わたしは気がかりなことについて述べました。

すると

ありがたいことに、ほかにも二人、同じ気持ちを味わった友人がいたのです。

始めました。普通なら、気にするようなことではありません。雨の降る中をハイキングしたことも度々あったからです。しかし今回は、何か不安を感じ、それがだんだん強くなっていったのです。天気予報を調べてみました。軽いにわか雨がある程度で、特に異常はありません。それでも、夜になると不安が増しました。眠る準備をし、聖文を読み、祈りをささげましたが、その気持ちはいっそう強まったのです。

とうとうわたしはリュックの所まで行

き、ホワイトマウンテン国立森林公園の地図を取り出しました。地図の上でチョコルア山を探し出すと、不安は倍増しました。不安があまりにも強くなったので、旅行を中止することも考えましたが、それもあまり納得がいきません。登りたい山々を書き出したリストの中から、別の山が目にとまりました。すると、すぐに不安が収まりました。祈りをささげると、新たな目的地について良い気持ちがしました。これでわたしの心配

は、恐らく友人のグレンを失望させるのではないかということだけになりました。グレンはこの旅行の計画にかなり力を入れていたからです。

翌朝もまだ弱い雨が降り続いていました。出発地点に全員が集合すると、わたしは気がかりなことについて述べ、またよく祈って感じたことを説明しました。するとありがたいことに、ほかにも二人、同じ気持ちを味わった友人がおり、グレンも喜んで目的の山を変更することに同意してくれました。それからわたしたちは祈り、旅行の間、見守ってくださるよう、そして正しい決断を下す助けをしてくださるよう、主に願いました。こうして皆、新たな計画に気持ちよく同



意し、出発したのです。

雨はまだ降り続いていましたが、車の運転中も登山中も無事でした。夕食が終わったところには雨も上がり、雲もなくなって、実に美しい夕暮れの景色を觀賞することができました。わたしたちは充実感に満たされ、眠りに就きました。

真夜中に、激しい嵐と稲妻に目が覚め、雷雨は、ほぼ夜の間中続きました。わたしたちのいる場所では雨も風も雷も激しいものでしたが、特に差し迫った危険を感じることはありませんでした。東の方では雷がはるかにひどく、見晴らしのいい所から見ると、間断なく、ある特定の場所が落雷に襲われ、それが少なくとも1時間続きました。わたしはそこにいなくてほんとうによかったと思い、また眠りに戻っていきました。残りの旅も、雨は降ったものの、安全に続けられ、とても楽しいものとなりました。

数日後、わたしはインスティテュートのバーベキューのパーティーに参加しました。ハイキングに参加した仲間も皆一緒でした。グレンが到着したとき、その顔には好奇心があふれていました。彼はホワイト山脈のガイドブックを取り出すと、ある箇所を示しました。そこにはこう書かれてあったのです。チョコリア山は周辺の山ほど標高はないが、山頂付近に樹木がなく岩肌がむき出しになっていて、その位置からも、北米では最も落雷の多い山の一つとして危険とされていると書かれてあったのです。さらにわたしたちは、集中砲火のように落雷に襲われた場所がチョコリア地域だったと分かりました。

あるとき聖霊によってあの山へ行かないようにと警告されたことに、わたしたちは心から感謝しました。■

マイケル・T・リッチーは、ロードアイランド州プロビデンスステーク、シチュエートワードの会員です。

## ジャズミンと安息日

マルセラ・コラベラルディーノ・デ・ミティロ

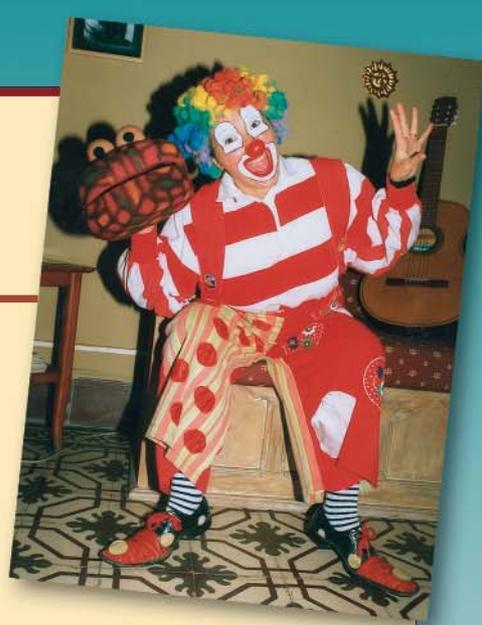
**数** 年前のことですが、夫の給料が突然3割も削減されることになったとき、わたしはどうしたら家計をやり繰りできるのか、その方法を考え始めました。

わたしはそれまで二人の子供のためによく誕生パーティーを開いていました。ピエロの扮装をしたり、ゲームや人形劇をしたりしました。お祝いするのを仕事にしてしまったら、と親戚に言われたこともありました。とうとうその提案を実行する時が来たように思われました。

わたしは地元の商店街にポスターをはり出し始めました。それから間もなく、「ピエロのジャズミン」に第1号の仕事が舞い込んだのです。

しかしながら、順調なスタートとは言えませんでした。最初の6か月間、依頼を受けたパーティーの大半が、日曜日だったのです。まるで、だれしも安息日にはピエロが欠かせないというような感じでした。わたしは安息日には絶対に働かないと主と約束をしていましたが、ほんとうに仕事を必要としているときに断らなければならないというのは、とても残念なことでした。

あるとき、市役所から、「子供の日」のお祝いに手伝いしてもらえないかという申し入れがありました。しかしその会は日曜日に開かれることになっていました。報酬は相当な額でした。でも、主との約束を破るわけにはいき



ません。友達の中には、もし日曜日の仕事を引き受けないのなら、成功はおぼつかないと忠告してくれる人もいました。でも、わたしは主を失望させることはできないと思いました。そのような葛藤の中で、安息日を敬う者と交わされた主の約束に心を向けようと努めました(教義と聖約59:9-13参照)。

やがて暮らしは楽になっていきました。数年たった今では、土曜日や週日の仕事がたくさんあります。顧客によっては、わたしに説得されて、パーティーの日取りを日曜日から土曜日に変更する人さえ出始めたのです。

日曜日を週のほかの日とまったく同じに考えている人が数多くいると思われる状況の中で、最初のうちは自分が成功できるのかどうか不安に感じたこともありました。しかし今は、わたしたちが喜んで主の戒めを守り、自分の責任を果たす意志があるということを主に示すならば、そのようにできる道を主は備えてくださることが分かります。■

マルセラ・コラベラルディーノ・デ・ミティロはアルゼンチン、リオクアルトステーク、ロケ・サエンズ・ペナワードの会員です。

## 予期せぬ出会い

匿名

**雨** 降りの暗い日でした。陽光にあふれる南カリフォルニアにしてはとても珍しい日でした。夫とわたしはステークの神殿参入日に満席のエンダUMENTの儀式を終えて、ちょうど出て来たところでした。夫は雨の中を車を取りに走って出て行き、わたしは神殿の扉の内側で待っていました。

ワードの会員と静かに話していると、見知らぬ姉妹が近づいて来ました。全身ずぶ

ぬれで、泣いていた様子です。うっかり車のヘッドライトを消し忘れ、そのためにエンジンがかからなくなったとのことでした。彼女は神殿の儀式に出席していたわたしたちの顔を覚えていたのです。彼女はあの儀式の中で、ステーク以外から参加した唯一の人物でした。もしわたしたちがバッテリーケーブルを持っていたら貸してもらえないかと思ったのです。

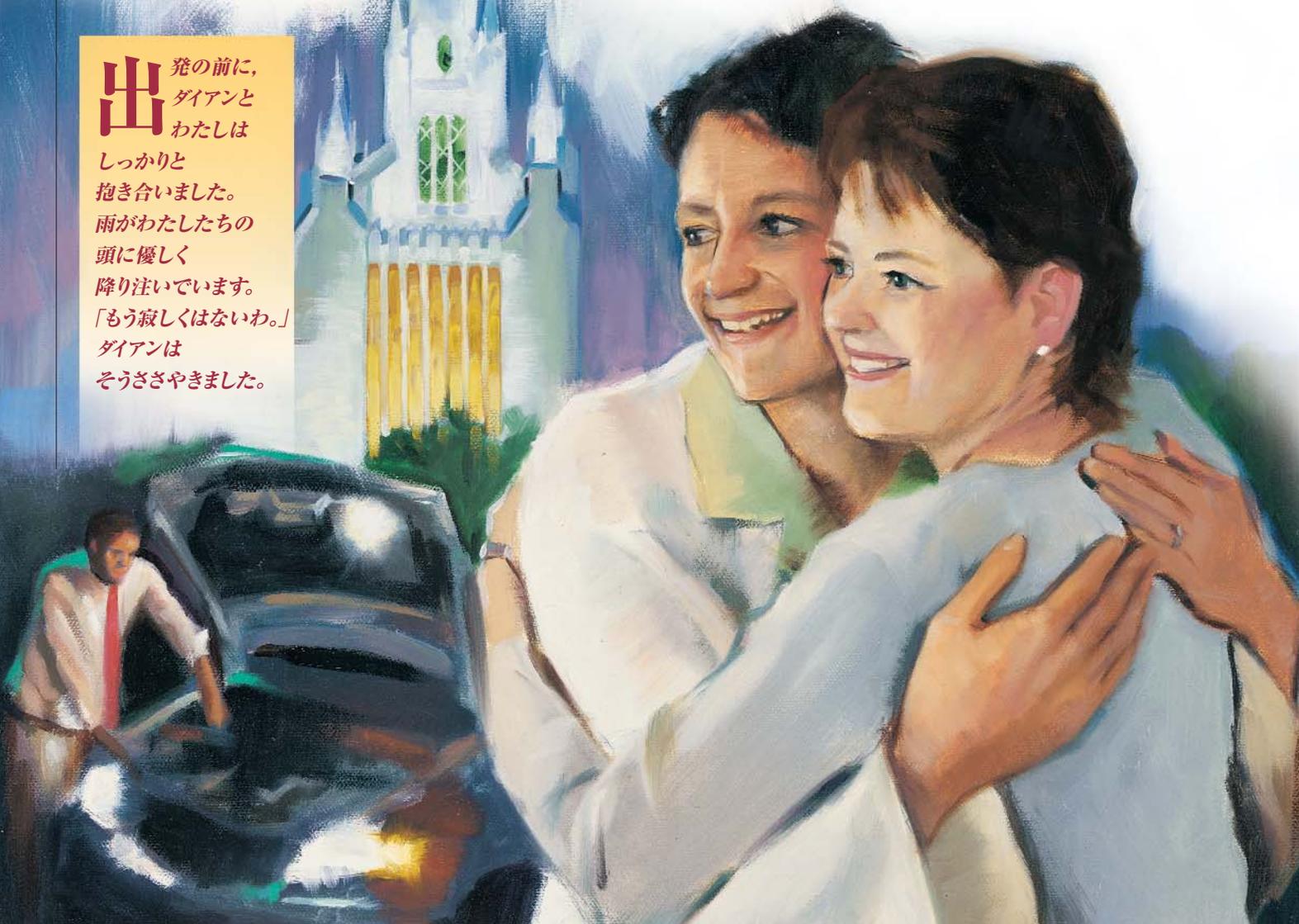
話をしていると、彼女はじっとわたしの顔を見詰め始めました。そして、ついにこう尋ねたのです。「もしかしたら、キャシー・ウエストじゃないですか。」(以下いずれも仮名)

驚いてわたしは叫びました。「それはわたしの結婚前の名前よ。」

「わたし、ダイアン・コーディ・ハートです」と彼女は答えました。「アン・コーディの妹です。」

アン・コーディという名前を聞いて、わたしの心は雷で打たれたようになりました。アンにはもう何年も会っていません。30年もの歳月と何千キロもの距離が二人を隔ててきました。アンはわたしの子供時代の友人でした。そして、わたしと教会をつないでい

**出** 発の前に、ダイアンとわたしはしっかりと抱き合いました。雨がわたしたちの頭に優しく降り注いでいます。「もう寂しくはないわ。」ダイアンはそうささやきました。



てくれた人物だったのです。母と姉たちとわたしは教会員でしたが、父は教会員ではありませんでした。そして、家族のだれも教会に活発に集っていませんでした。そんなわたしを、アンは特に強制することもなく、しかし、いつでも教会や若い女性のクラスに連れて行ってくれました。教会の活動にいつも誘ってくれたのです。10代の難しい年ごろに活発でいられたのは、福音に対する自分自身の証<sup>あかし</sup>というよりもむしろ、アン<sup>あかし</sup>の友情があったからでした。

そのように細いながらも教会とのつながりがあったおかげで、両親が離婚したときも、わたしは支えられました。導きを受けて、失意の父にアドバイスをすることもできました。教会に出席して宣教師から福音を学んだらどうかと言ったのです。父が教会に入り、再び母と結婚し、教会とのつながりが強まりました。教会とつながっていたからこそ、不穏な10代を乗り切ることができたのです。

その間ずっとアンはわたしの友人であり、模範でした。彼女がブリガム・ヤング大学に進学することを決めたとき、わたしは一人で残されなくなかったため、同じ大学へ進学しました。在学中、友人に恵まれ、教会のプログラムに全面的に参加したおかげで、わたしの証も強まりました。

しかし、大学2年生のとき、わたしたち家族は思いがけない悲劇に襲われました。いちばん上の姉は何年も前から情緒的な問題を抱えていましたが、その姉が自分で命を絶ったのです。そのつらい日々にあって、家族が新たに見いだした証は大きな慰めとなってくれました。

やがてわたしはある帰還宣教師と出会い、神殿結婚をすることになりました。結婚式の前日、両親が自分たちのエンダウメントを受けました。そして、

亡くなった姉の代理の人を含めて、家族として結び固めを受けることができました。アン<sup>あかし</sup>の静かな影響力は、わたしだけでなく、家族にも神殿の祝福をもたらしてくれたのです。

わたしはダイアンを抱き締め、お姉さんの友情と模範に対する心からの感謝を表しました。夫が車を運転して戻って来ましたが、バッテリーケーブルがないので、ダイアンを車に乗せて、近くのスーパーマーケットを買いに行こうということになりました。

夫がケーブルを買いに店へ入っている間、ダイアンと車の中で待っていました。ダイアンに家族の様子を尋ねました。すると、今晚は家族全員がそれぞれの場所で同時に神殿の儀式を受けていたという答えが返ってきました。アンはシカゴで、ダイアンはサンディエゴで、そして両親はリノで、儀式を受けていたのです。そして1年前に亡くなった弟のために、代理で神聖な神殿の儀式が執り行われたとのことでした。ダイアンはご主人に3人の子供の面倒を見てもらいながら、一人で神殿に来て、特別な儀式に参加したのです。

わたしはダイアンの手をしっかりと握り締め、どうして弟さんが亡くなったのか尋ねました。彼女は涙を流し始め、小さな声で、とても仲が良かった弟が自分で自分の命を絶ったのだと教えてくれたのです。涙にむせびながら、弟の自殺のこまごました事情を思いながら、混み合ったエンダウメントの儀式の中にも、ひしひしと孤独を感じていたと語りました。

わたしは、あの晩わたしたち二人が出会ったことに、主の手を感じました。車の屋根に降り注ぐ優しい雨の音を聞きながら、何年も前に起きた弟の自殺のことや、それを理解し受け入れようとした家族の葛藤<sup>かっとう</sup>などについて話し

始めました。彼女の手を握り、気持ちよく分かれると話しました。やがて夫がバッテリーケーブルを買って戻って来ました。

神殿へ戻り、夫はダイアン<sup>あかし</sup>の車のエンジンをかけました。出発する前に、ダイアンとわたしはしっかりと抱き合いました。雨がわたしたちの頭に優しく降り注いでいます。「もう寂しくはないわ。」ダイアンはそうささやきました。

雨の中を消えて行くダイアンを見送りながら、わたしは天の御父<sup>いつく</sup>の慈しみに心を打たれていました。天の御父は、慰めを必要とする神の娘と会わせるためにわたしをそこへ導いてくださったのです。同じような経験をしたからこそ、わたしは彼女を慰めることができたのです。そして、天の御父は、愛する友人が30年前にしてくれた特別な奉仕に対して、わたしが少しでもお返しすることのできる貴重な機会を与えてくださったのでした。■

## 会う前からの奉仕

ホセ・サルバドル・ヤネス・ロペス

**わ**がホンジュラスのコマヤグエラでバプテスマを受けたのは、1992年2月のことです。やがてエルサルバドルで伝道した後、ホンジュラスのサンペドロスラに引越しました。そこでブレンダと出会いました。9日前に伝道から帰還したばかりの美しく若い女性でした。その数か月後、わたしたちはグアテマラ・グアテマラシティー神殿で結婚しました。

わたしたちはホンジュラスのフェシトランワードで家庭を築き始めました。程なくわたしは第一副監督に召されました。ある神権役員会で、監督が、ワードの会員フィデル・デュロン兄弟が間もなく同じステーキのほかのワー



ドに引っ越すことになったと報告しました。そして、デュロン兄弟は奉仕の精神にあふれる人なので、ワードの会員は一人残らず、何か彼に感謝することがあるに違いないと言いました。

デュロン兄弟は困っている人はだれでも助けました。電気器具の修理であれ、大工仕事であれ、水道管の修理、あるいは病人を早朝病院に送って行くことであろうと、何でもしてくれました。しかも、彼の奉仕は教会員に限らず、隣人や知人にも及びました。だれからも愛され尊敬されていました。監督は、デュロン兄弟に何か感謝することのある会員を一人残らず見つけるようにわたしたちに割り当てを与えました。こうして、長年にわたって無私の奉仕を続けてくれたデュロン兄弟をたたえるために、ある集会が計画されました。

わたしは考えました。「わたしには、特にデュロン兄弟に感謝するようなことはないな。」そのワード内に住み始めたばかりで、彼と話したことはほんの数回しかなかったからです。彼は快活な人のようでしたが、わたし自身は

彼の奉仕の行いを受けられる機会はまだなかったと思いました。

その後しばらくして、わたしは高等評議員に召され、ロペス・アレノワードの担当になりました。デュロン兄弟が現在、出席しているワードです。ある日曜日にわたしはそのワードの日曜学校に出席していました。すると、教師がクラスの会員に、奉仕に関する個人的な経験を分かち合うよう依頼しました。

わたしはそのとき、たまたま、アデラ・ローサ・デ・サントスという名前の姉妹の左側に座っていました。彼女は、自分の右側に座っているデュロン兄弟が、自分と家族がまだ教会の新会員だったころ、ホームティーチャーとしてよく働いてくれたことを話し始めました。彼の温かい奉仕のおかげで、必要なときに力や励ましを受け、生活に多くの祝福がもたらされてきたとのことでした。彼女は最後にこう言いました。「デュロン兄弟、もしあなたがいなかったら、わたしは今こ

こにいなかったでしょうね。」

わたしは自分の耳を疑いました。アデラ姉妹の娘のスヤパは、その5年前にわたしの家のドアをノックしてくれた宣教師だったのです。おかげでわたしは教会員となり、これ以上あり得ないほどの豊かな祝福に満たされてきました。伝道に出る機会に恵まれ、神殿の儀式を受ける特権にあずかり、永遠の家族を築くという栄光に満ちた希望を抱けるようになったのです。

その瞬間、わたしは20年前の出来事を知りました。人に奉仕をするという決意を実行した一人の謙遜な男性が、それとは知らずに、わたしの魂の救いのために働いてくれたのです。わたしは言葉で言い尽くせぬ喜びと、わたしの兄弟であるフィデル・デュロンに対する愛に満たされました。かつて自分はデュロン兄弟に感謝することは何もないと考えていました。しかし

今は、あのとき監督が要請したリストには、真っ先にわたしの名前を挙げるべきだったと考えたのです。

デュロン兄弟のために計画されたあの特別な集会は、結局は開かれませんでした。彼がまたしばらくフェイトランワードに戻って来たからです。わたしたちは今では麗しい友情で結ばれています。わたしは、イエス・キリストがわたしのためにしてくださったあらゆることに対して、心からの感謝の念を抱いています。それと同時に、デュロン兄弟が、わたしたちの会うはるか20年前に示してくれた愛に対しても、心からの感謝の念を抱いています。■

ホセ・サルバドール・ヤネス・ロペスは、ホンジュラスのフェイトランステーク、フェイトランワードの会員です。

**デュロン**姉妹  
**デ**は、ホーム  
ティーチャー  
の温かい奉仕の  
おかげで、生活に  
多くの祝福が  
もたらされてきたと  
話してくれました。  
そして、  
こう言ったのです。  
「もしデュロン兄弟が  
いなかったら、  
わたしはここに  
いなかったでしょうね。」

# だまされては いけません



どんなに装っていても、罪は罪です。  
近づかないでください。  
(教義と聖約50:3；モーセ4:4参照)



# 啓示の霊

チリ地域担当  
地域幹部七十人  
M・ゴンサロ・セポーブダ



思い悩んでいる状況  
について深く考え、  
助けを求めて  
熱心に祈るなら、  
またそれに加えて、  
神の戒めを守るよう  
努め励むなら、  
神からの啓示が  
心に注ぎ込まれる  
ことでしょう。

**随**分前の経験ですが、個人的に受けた一つの啓示によって、わたしの人生は永遠にわたって大きく変化しました。そのころのわたしは、大学を卒業してまだ日が浅く、申し分のない会社に職を得ていました。何もかもがうまくいっているかのように見えたにもかかわらず、わたしの心には何かが足りないという不安が渦巻いていました。そのうえ、答えを見いだすことのできない疑問がたくさんありました。やがて、友人のイマベルから「モルモンの人たちと会って」みるようにと勧められましたが、それが疑問に対する答えを見いだすきっかけになるとは思ってもいませんでした。しかし実際は、その経験がわたしの人生に想像もしなかった影響を及ぼす結果となったのです。

1974年8月のある日曜日、集会所にイマベルとともに到着したとき、教会員——中でもとりわけ青少年たちが、まるで旧友を出迎えるかのように心から歓迎してくれました。またそこで話に耳を傾けていると、話者が自分の話す事柄に強い信仰を持っていることが分かりました。そして話者が話し終えたとき、わたしは心に温かい気持ちを感じて驚きました。

2日後、わたしはある教会員の自宅で、福音を教える宣教師の言葉に聞き入っていました。残念なことにわたしの家族は、宣教師が我が家を訪問することを許してくれませんでした。

代々受け継いできた根強い宗教的伝統のためであり、家族がほかの宗教に対して恐れを感じていたためでもありました。そんな家族の気持ちを、わたしはよく理解することができました。しかしたとえ何が待ち受けていようとも、自分自身のために、どうしても真理を知る必要がありました。そこで、心の中で熱心に思い計り(教義と聖約9:8参照)、知恵と知識を求めて神に祈りました。

ある日、宣教師から最初の示現について教わっていたときのことで、聖なる御霊が、預言者ジョセフ・スミスは確かに天の御父と御子に会ったと力強く証(あかし)しました。わたしはデニス・ラム長老にこう告げました。「それは真実です。ほんとうのことだと、わたしは知っています。」

その夜わたしは宣教師の勧めに従い、心の願いを神の前に注ぎ出して、モルモン書もまた真実であるかどうか神に尋ねました。そして再び、先に感じたような平安と喜びに満たされたのです。主が宣教師を通して示してくださる新たな生活に対して、心が感謝で満たされました。わたしの思いと心は「真理の御霊に」照らされ(教義と聖約6:15)、愛に満ちた神である御父が実在しておられることを知りました。その御方は、わたしたちを愛しておられ、主の僕たちを通して両手を差し伸べてくださっているのです。

程なく、祝福に満ちた出来事が次々と起こり

ました。バプテスマを受けて2か月後に、わたしは末の妹と弟にバプテスマを施しました。そして1年後には、チリ南部で専任宣教師として働き始めました。さらに伝道中に、母がバプテスマを受け、帰還後には父にバプテスマを施すことができたのです。また弟と二人の妹も名誉ある伝道の召しを果たしました。そして伝道から帰って数か月後に愛する妻アドリアナと出会い、神殿で結び固められました。続いて、聖約の下に生まれた3人の子供に恵まれました。すべては、預言者ジョセフ・スミスと回復された教会について証する、静かな促しの声に耳を傾けたおかげです。個人の啓示というすばらしい賜物に、心から感謝しています。

**わたしは大学を卒業してまだ日が浅く、申し分のない会社に職を得ていました。にもかかわらず、心には何かが足りないという不安が渦巻いていました。**

## 知恵の必要性

預言者ヨエルは、およそ3,000年も前に末日を予見し、啓示について語りました。ヨエルを通して主は、霊的な渇きが地上に蔓延した後、次のような時代が来ると宣言されました。「わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。」(ヨエル2:28) 同じ聖句を、3,000人がバプテスマを受けたペンテコステの日に、使徒ペテロも引用しています(使徒2:17, 41参照)。そして天使モロナイが預言者ジョセフ・スミスを訪れた際に、再び宣言されました(ジョセフ・スミス—歴史1:41参照)。

今日この世にあって、数多くの恐れや混乱、暴力、腐敗などを目にします。こうした感情や行動は、ほとんどの場合、主の腕に頼らず、個人の啓示を通して知恵を得ようとしなくなったことによって引き起こされているのです。

この知恵こそ、ソロモン王の心にあった唯一の望みでした。「この民の前に出入りすることのできるように今わたしに知恵と知識とを与えてください。だれがこのような大いなるあなたの民をさばくことができますでしょうか。」(歴代下1:10)

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう」とヤコブの手紙第1章5節に明記されているように、神は惜しみなく知恵を与えてくださいます。預言者ジョセフ・スミスが啓示によって知恵を求めたからこそ、その結果として人類にとって輝かしい、重要な知識がもたらされたのです。

## 個人の啓示を通して知恵を求める

人は個人の啓示を通して自分自身の生活に必要な知恵を求めることができます。多くの場合、それは穏やかな促しや感情を伴って与えられます。思い悩んでいる状況について深く考え、助けを求めて熱心に神に祈るなら、またそれに加えて、神の戒めを守るよう努め励むなら、神からの啓示が心に注ぎ込まれることでしょう。こうしてわたしたちは、周りの人にとって光となることができるのです。

わたしは証します。信仰と悔い改める心をもって、主なるイエス・キリストとその教えに従うなら、主は「啓示の霊」によって導きを与えてくださいます(教義と聖約8:3)。恐れや疑いを抱くときでさえも、わたしたちの生活は祝福されるのです。■

# 教師 定員会

神権定員会とその目的に関する2回目の記事です。  
管理監督会が教師定員会について語っています。

教師定員会の年代というきわめて大切な時期にあって、個人がさらに霊的に強くなるために、定員会はどのような助けができますか。

**管理監督 H・デビッド・バートン (上中央)**——青少年には、教会の中で御霊を感じる機会が必要です。若い男性が同年代の人たちとクラスの机を囲んで、あるいはどのような話し合いの場であっても、ひざまずき、へりくだって祈ることの意味を考えてみてください。このような習慣は若い男性の生活に大きな変化を起こすことができます。

若い男性が同年代の人たちとひざまずき、定員会のだれかのためにへりくだって祈ることの意味を考えてみてください。



**第一副監督 リチャード・C・エッジリー (左)**——定員会の会員で病気の人や、福音の道からそれている人、問題を抱えている人のためにひざまずいて祈ること

は、教師たちにどのような影響を与えるか考えてください。それは、この少年たちに必要な兄弟愛を築くきっかけとなるでしょう。若い男性のこの時期には、友人から最も大きな影響を受ける場合が非常に多いのです。わたしたちは彼らが定員会の中で、ともに霊的な経験をし、支え合い、真の兄弟愛をはぐくめるような友人を得るよう願っています。

**バートン監督**——定員会アドバイザーに、定員会の会員に電話をかけ、様子を尋ねるよう依頼することはよいことです。しかし、定員会会長が訪問し、電話をすることは比較になりません。

皆さんはアロン神権の教師だったころ、どのような割り当てを受けていましたか (教義と聖約20:53-55参照)。

**第二副監督 キース・B・マクマリン (上右)**——片言の英語しか話さないスカンジナビア出身の兄弟と、最初のホームティーチングの割り当てを受けたことを覚えています。その兄弟は電話をかけてくるのですが、言っていることを理解するのは大変でした。彼は家に招待してくれました。年配の方でしたが、とても立派な末日聖徒で、わたしの先輩同僚でした。わたしを家に招き入れると、とても強いなまりで「お祈りをした方がいいですね」と言いました。わたしたちはひざまずき、祈りました。当時我が家では、家族の祈りは何か特別な行事があるときにだけささげ、日常的には行っていませんでした。しかし、ホームティー

チャーの同僚は、別の角度から祈りの大切さを教えてくれたのです。わたしはこう思いました。「ホームティーチングはほんとうに大切に、祈りはホームティーチングの大切な一部なのだ。」そしてもちろん、ホームティーチングがどんなにすばらしく、貴重な経験なのかを実際に経験しました。

**パートン監督**——初めてホームティーチングの割り当てを受けたとき、どんなに怖かったか覚えています。同僚はあまり教会に来ていないメルキゼデク神権者でしたが、忠実にホームティーチングを行う人でした。訪問先に行くとき、このたくましくて大柄な、どちらかといえば粗野な風貌ふうぼうの同僚は、この上なく柔和で、穏やかで、いつでもその家族とともにひざまずいて祈ることを強く求めました。彼はすばらしい人であり、若い教師だったわたしに、ホームティーチャーとはどうあるべきかを教えてくれました。

**定員会を指導するときの青少年の大切な役割について話してこられました、定員会における成人指導者の役割についてはどうでしょうか。**

**エッジリー副監督**——監督会として働かなくてはなりません。そこから始まるのです。わたしはト

**献身的な同僚の助けによって、教師はホームティーチングが重要であり、祈りはホームティーチングの大切な一部であると学ぶことができます。**



**家族で定期的集まって、祈りをささげているのであれば、若い男性は義になつた真理の道を進むことでしょう。**

マス・S・モンソン第一副管長の勧告が好きです。モンソン副管長はこう言いました。「執事を全員確実に教師にするために、執事担当の副監督と話をしてください。また教師を全員確実に祭司にするために教師担当の副監督と話をしてください。そして監督は自らこう言うのです。『わたしは祭司を引き受けます。祭司が一人残らずメルキゼデク神権を受けられるようにします。』これは確かに実行することができます。そして実際に行われてきました。

こんにも**今日、教師が直面する最大の試練にはどのようなものがありますか。彼らが忠実でいられるよう、どのような助けができますか。**

**エッジリー副監督**——この年代の少年は自立したがります。親がどこまで許してくれるかを探っていて、自由を試しているのです。彼らが教師定員会で、義になつた仲間と環境の下で自由を行使できるようにする必要がありますのはそのためでもあります。

**マクマリン副監督**——若い男性の人生の中で12歳から15歳というのは、感受性の強い時期に当たります。この年代の若人は、祝福師の祝福について思い巡らしたり、モルモン書について考えたりする傾向があります。きわめて重要な時期なのです。

**パートン監督**——帆を正しく張っていれば、船は正しい航路を進むものです。家族ですべて家庭の夕べを開き、少しでも家庭で福音を学び、家庭の中で定期的集まって、祈りをささげていると、大変役立ちます。両親はこの3つを達成するために、あらゆる努力をするべきです。それが子供たちを守る最良の方法なのです。■



# 神権の職の 教師として

パメラ・リード

**ダ**ロン・モラー兄弟とその家族は、ニュージーランド・オークランド・ハーバーステークのイーストコーストベイズワードに引っ越して来ました。モラー兄弟はそこで、ホームティーチングの同僚としてスコット・コベットを割り当てられました。スコットはアロン神権の教師でした。

モラー兄弟はこう回想します。「スコット・コベットについては何も知りませんでした。どんな人かと尋ねると、『あなたより背の高い人を探してごらん』という答えが返ってきました。それですぐにスコットが見つかりました。」

スコットは15歳で、教師定員会の副会長でした。スコットにとってニーファイはモルモン書の英雄の一人でしたが、そのニーファイと同じく、スコットも身の丈の高い若者でした。また主の戒めを守ろうという固い決意を持っている点も、ニーファイと同じでした。

スコットは言います。「学校では、級友たちが悪い行いをしたことをたたえ合っていますが、『自分はそんなことに手を染めなくてほんとうによかった』と思います。子供のときからずっと、ああいうことは間違っていると思っていました。悪い行いがもたらす結果を考えると、正しい選択が容易にできます。」

教師定員会の一員として、スコットには聖餐を準備するという責任があります。ある日曜日、困ったことに、スコットの所属する大きなワードの兄弟姉妹に足りるだけの聖餐カップがありませんでした。



そのときのことをスコットはこう言っています。「自分たちの義務を果たさなかったという、罪悪感を抱きました。教師定員会はこれからはもっときちんと責任を果たすことに決めました。今では、教師定員会会長会は聖餐会の1時間前に会長会を開き、その日の聖餐式の準備を整え、その先数週間の計画を立てるようにしています。教会の中にある秩序が好きです。秩序正しく行えば、心配することはありません。」

モラー兄弟は、スコットと一緒にホームティーチングをするようになって、自分の召しに広がりが出てきたことに気づきました。「わたしは担当家族の訪問を100パーセント果たそうと決心していました。そして、まさにスコットのおかげで目標を達成できています。わたしが確実に訪問の約束を取るように、スコットから電話がかかってくる。また彼が初めてレッスンをしたときには、少し早めに来て、自分が準備したレッスンを聞いてほしいと言いました。訪問先の幼い子供たちも、彼のレッスンに耳を傾けていました。」

スコット自身はホームティーチャーの責任について次のように思っています。「モラー兄弟と一緒にホームティーチングに行くのが楽しみです。教師が二人だけでホームティーチングに行っても、何をしたらよいのかあまり分らないと思います。でも、年長の人と一緒に行けば、違う年代の人の意見を聞くことができます。相手がほんの数人だと、レッスンするのにとっても緊張することがあります。自分のレッスンがどのように受け入れられるのか分らないからです。でも、耳を傾けてくれるときには、安心します。」■

スコット自身はホームティーチャーの責任について次のように思っています。「モラー兄弟と一緒にホームティーチングに行くのが楽しみです。教師が二人だけでホームティーチングに行っても、何をしたらよいのかあまり分らないと思います。でも、年長の人と一緒に行けば、違う年代の人の意見を聞くことができます。相手がほんの数人だと、レッスンするのにとっても緊張することがあります。自分のレッスンがどのように受け入れられるのか分らないからです。でも、耳を傾けてくれるときには、安心します。」■

パメラ・リードはニュージーランド・オークランド・ハーバーステーク、バーケンヘッドワードの会員です。



# 御存じでしたか？

## わたしはだれでしょう？

### モルモン書のヒーロー

わたしの人生で起こった事柄を読んで、わたしがだれか当ててください。下にある参照聖句も読んで、わたしのことをもっとよく知ってください。

1. わたしはリーハイの子孫です。
2. 11歳のとき、父と一緒にたくさんの人が住む南の町へ行きました。
3. 10代を過ごしたのは、恐ろしい戦争と暴力の時代でした。
4. 15歳のとき、主の訪れを受けました。
5. わたしはイエス・キリストの弟子です。
6. 10代のとき、年齢にしては人並み以上に身の丈が高かったです。
7. 16歳になると民を率いて多くの戦いに加わるようになり、その後軍の司令官として幾らか成功を収めました。
8. 年齢を重ねた後、レーマン人との戦いがないときに、わたしの民であるニーファイ人に福音を説きましたが、うまく

いきませんでした。

9. 何年も司令官として務めた後、わたしは、自分の民の軍の司令官を辞めました。

10. およそ1,000年にわたる民の歴史を短くまとめた版を作りました。

11. 司令官を退いた後何年もたつて、再度軍を率いることに決めました。

12. 息子と離れ離れになっていたとき、息子へ何通か手紙を書きました。

13. 終わりの時の人々に向けて力強い警告を書きました。

14. 同胞がイエス・キリストを知るように神に祈りました。

15. わたしはレーマン人との戦いで死にました。

答えは次の聖句を参照してください。

モルモン言葉1:8;3ニーファイ5:13, 20;  
29-30章;モルモン1:6, 8-12, 15-16;  
2章;3章;5:1;8:3;モロナイ8-9章

### 指導者へのヒント——目標を追い続ける

目標を立てるとき、教会や学校、地域社会でもっと良いリーダーになるためにどんなことができるか考えてください。例えば、人前で話す力を伸ばす、頭を整理して行うべきことを忘れないようにする、さらには義理にかなった人になり、より良い模範を示せるようになるなどです。

目標を紙に書いて、目につく所にはってください。少なくとも週に1度、目標を達成するために役立つことを必ず行ってください。

### イギリス諸島のヤングシングルアダルト

イギリス諸島のヤングシングルアダルトは、イギリスのマンチェスターで開かれた地元の教会史上最大のヤングシングルアダルトカンファレンスに出席して、強さと忠実さを増しました。イングランド、アイルランド、スコットランド、ウェールズ、そのほかの地域から540人以上の若者が集まり、特別な週末を過ごしました。

ヤングシングルアダルトは、人道援助プロジェクトを通して、

人々に希望を与える手助けをしました。寄付された衣類の仕分けや箱詰めをしたり、学校用品として250台の黒板を塗ったりしました。また、ウィゼンショーにある公園の掃除もしました。

カンファレンスではずっと働いていたわけではありません。ダンスをしたり、劇を演じたり、話を聞いたりしました。当時ヨーロッパ西地域会長会第一副会長を務めていた七十人のW・クレグ・ズウィック長老は、強さと忠実さを増す方法についてこのように助言しました。「重要なことは、神の武具を身につけることです。」(エペソ6:11-17参照)





**相互理解を促す『リアホナ』**

わたしはイタリア国内で異なる宗教間の理解と交流を図る小さな協会の会長です。末日聖徒と協力する機会が多く、非常に良い経験をしてきました。

皆さんの教会のある人のおかげで、長年『リアホナ』を送っていただきました。皆さんの教会の方だけでなく、皆さんの教会についてもっと知りたいと思っている人も読めるようにすることが大切ではないでしょうか。

わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長やトーマス・S・モンソン副管長などの言葉を読み、人に紹介してきました。特に深く心を打たれた記事は、ヒュー・B・ブラウン長老の「すぐりの木」です(『リアホナ』2002年3月号, 22参照)。

また、「ムハンマドに対する末日聖徒の見解」(『リアホナ』2002年6月号, 30参照)というすばらしい記事を書いたジェームズ・A・トロント氏に心から感謝の意を表したいと思います。この記事は、他宗教が表明している真理に対して敬意を払っていると思います。この記事を読んで、心からうれしくなりました。



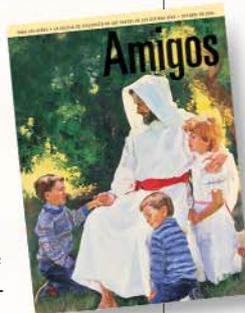
この困難な時代にあって、これからも主が全人類に愛を注いでくださるよう望んでおります。

イタリア・ローマ  
パスクアーレ・カルディナーレ

**『フレンド』に感謝**

教会のすべての会員と他宗教を信じる人たちに良き知らせを運んでくれる、すばらしい出版物に感謝しています。特に『フレンド』に感謝しています。子供に福音を教えるという大切な責任に非常に役立つ資料が毎掲載っています。わたしのワードの初等協会で、毎週日曜日に使っています。

メキシコ・モンテレーモデルナステーク  
アステカワード  
オルガ・ロサノ・デ・ゴンサレス



**預言者に耳を傾ける**

『リアホナ』のメッセージは人生の目的を理解する助けになります。『リアホナ』はわたしの道案内です。永遠の命へ導いてくれる「細くて狭い道」に

沿って歩めるよう助けてくれます(2ニーファイ31:18参照)。わたしは預言者を通して与えられる天の御父の勧めを読むのが好きです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が預言者であることを知っています。『リアホナ』を読み、大管長の勧めに耳を傾けましょう。

コンゴ共和国キンシャサ伝道部  
ルプタ支部  
アンドレ・チャモラ

**試練のときの強さ**

『リアホナ』の出版に携わっている人々と、個人的な話を分かち合ってくれる人々に感謝したいと思います。教会員になったときから、『リアホナ』はわたしの生活になくてはならないものになっています。中央幹部の靈感あふれるメッセージを読むと、その中に困難を乗り越えるための力と導きを見つけ、自分が果たすべき義務(モーサヤ1:17参照)を思い出します。

グアテマラ・サンフェリペステーク  
ヌエボバルマ支部  
ミルトン・オスシエル・エスコバル・ペリコ

**霊の羅針盤**

2003年1月号に掲載されたトーマス・S・モンソン副管長のメッセージ「主の道」を読み、とても平安と慰めを得ました。わたし自身の経験と深く結びついていたので。副管長のメッセージを読み、道を踏み外さないように助けてくれる、生ける預言者の重要性についてさらによく知ることができました。『リアホナ』という霊の羅針盤によって、主は大きな助けを与えてくださいます。

ベネズエラ・カラカス・パロベルデステーク  
ラタホナワード  
ジョナサン・サンタクルス

4 教会の業を行うときに  
教会外の人に助けを求めるなら、  
その人は必要とされていると感じ、  
御霊を感じやすくなる。



**奉**仕を行うときに  
人々の助けを求めることは、  
会員が伝道活動  
するときに役立つ  
7つの提案の一つです。  
そのほかの6つの提案については、  
16ページの「福音を伝えるための  
7つの教え」を参照してください。